

～ふるさとの魅力とあなたの笑顔が輝く情報誌～

広報 田野畑

Tanohata Village Public Relations Magazine

4

April.2021
No.649

新たな道へ――

佳人十色
角館 樹君

がんばってます
埜崎 一茂さん

わが家のアイドル
阿部 創太君

主な内容

特集 3654日～あの日から10年。記憶を未来へ～
もうすぐ1年生
令和3年度施政方針

今月の表紙

3月13日、田野畑中卒業式。校長先生から笑顔で卒業証書を受け取る砂森美咲輝(すなもり・みさき)さん(関連記事は50頁)



特集 Special Feature 〈あの日から10年。記憶を未来へ〉

3654日

2011.3.11 | 2021.3.11

令和3年3月11日
東日本大震災から
10年が経過した
私たちの暮らしを一瞬にして
奪い去った大津波
あの日から10年
古里の復興に向かい
村民一丸となって進んできた
その歩みを振り返る

水平線がどこまでも続く青い海
今日も海は穏やかだ

漁業 磯遊び 海水浴 夏祭り

私たちの暮らしの中には

いつも海がある

海は私たちにたくさんの恵みや

笑顔を与えてくれる

けれど：

あの日の海はいつもと違っていた

震災から10年

あの日から3654日が経過した

いろいろな思いを抱えながら過ごしてきた

涙が止まらない日もあった

後悔した日もあった

人の温かさ感謝した日もあった

10年前、海を恨んだこともあった

波の音や磯の香りは

楽しいことも悲しいことも思い出させる

10年は区切りではない

これから私たちは

海と共に生きて行く――



村に甚大な被害をもたらした東日本大震災から10年を迎え、あらためて犠牲になられた方々に、謹んで哀悼の意をささげます。

村は震災直後から、被災された方々の住宅再建と、なりわいの再生を最優先に復興事業に取り組んできました。

古里の復興に取り組む過程で、村民が同じ目的に向かって頑張っていこうという意識や、自分たちの地域は自分たち創っていこうという意識が生まれました。村民一丸となり復興そして、復興の先を見据えた村づくりを進めてきたことを強く感じる歳月でもありました。

震災直後からこれまで、世界中からたくさんの温かい支援をいただきました。あらためて、心から感謝を申し上げます。

震災から10年が経過しましたが、大切な家族や友人などを失った方々、思い出の詰まった財産を失った方々の心の傷は、いまだに癒えることがないと思います。

人の心に10年という区切りは無く、この経験をこれからの生活や地域づくりに、どのような形でつなげていくかを考え、行動していくことが大切だと感じています。

今を生きる私たちが、明るく元気に生活し、互いを理解し合い、寄り添い、支え合いながら村を愛し続けていくことが大切であると思います。

復興を支援していただいた世界中の方々への感謝の心を忘れずに、共に未来に向かって歩んで行きましょう。

田野畑村長 石原 弘



■東日本大震災の被害概要(令和3年3月1日現在)

人的被害(村民)

死者	行方不明者	負傷者	震災関連死
23人	15人	6人	3人

建物被害(住家のみ)

全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	計
225戸	22戸	23戸	11戸	281戸

被害額(191億409万円)

主要内容	住家・非住家…49億4964万円 水産・漁港施設…97億6998万円 観光・商工施設…25億1180万円 など
------	---

10年の歩み

History of the 10years

東日本大震災から10年

私たちの古里はどう変わったのか

平 成23年3月11日午後2時46分、東日本を中心に、かつて経験したことのない激しい揺れが襲った。

マグニチュード9.0。宮城県牡鹿半島の東南東約130キロの三陸沖の海底を震源として発生した国内最大規模の地震は、後に大津波を引き起こし、東北太平洋側を中心に甚大な被害をもたらした。警視庁ホームページによると、全国で死者1万5899人、行方不明者2527人。建物被害は、全壊12万2千戸、半壊28万3117戸に及んだ(令和3年3月1日現在)。

本 村では震度4を観測。同時に避難指示を発令。防災行政無線で避難を呼び掛けた。村消防団員や消防田野畑分署員は、沿岸部で住民の避難誘導に当たった。水門や陸間を閉鎖し、避難を呼び掛けながら地区を巡回した。

午後3時25分ごろ(推定)、沿岸部に襲来した最大遡上高(津波が陸上を駆け上がったときの最大到達高度)25.5メートルの大津波は、多くの尊い命と私たちの古里を一瞬にして飲み込み、島越、羅賀の両地区は壊滅的な被害を受けた。

避難所となったアズビィホールやアズビィ練習センターでは、最大601人が避難生活を送った。4月8日には、高校と中学校の両グラウンド、アズビィ施設周辺に仮設住宅の建築が始まり、6月28日までに186戸が完成。全ての被災者が仮設住宅へ入居した7月4日に避難所を閉鎖した。

震 災では、村民26人(震災関連死3人含む)の尊い命が失われ、いまだに15人の行方が分かっていない。住家の被害は、全壊、半壊など281戸、被害額は約39億1127万円。魚市場やサケふ化場などの水産施設や漁船477隻、養殖施設などが被害を受け、被害総額は191億円にのぼった。

村 は9月29日に「復興基本計画」、翌年3月31日に「復興実施計画」を策定。復興の目指す姿として「心をひとつに 未来に向けた復興」を掲げ、▼防災の地域づくり8分野(避難路や防潮堤の施設整備など) ▼生活再建3分野(高台移転団地の造成や災害公営住宅の整備など) ▼地域振興6分野(水産と観光関連施設の再建など)の基本方針に基づき、17分野で村民一丸となり復興事業に取り組んできた。



避難所では、最大601人が避難生活を送った



島越地区を襲った津波(写真提供:早野鶴喜さん)



写真で振り返る10年の歩み

島越地区

震災から10年が経過した島越地区。被災した魚市場と観光船発着所などを再建



観光船が定期運航を再開(平成26年7月26日)



島越大神宮祭が3年ぶりに復活(平成25年7月28日)



黎明台団地内に災害公営住宅24棟完成(平成26年7月31日)



三陸鉄道島越駅舎が完成(平成26年7月25日)

忘れないー。古里の風景

【震災から10年】



【震災後】



【震災前】



島越自治親交会
鈴木 隆昭 会長
SUZUKI TAKAAKI

Interview

地域のつながりを保っていききたい

震災前の島越地区は、夏祭りや盆踊りなど、カルボナード島越駅を中心にいろいろな行事が行われていた。ピーク時に比べると減ってきてはいたが、海水浴にもたくさんの人が訪れていた。

漁師などの漁業従事者が多く、同じような家庭環境のため、互いに助け合いながら生活していた印象がある。絆が強い地域柄だった。

震災後、地区住民の多くは、中学校

仮設団地で生活した。そこでも、みんなで協力しようとする気持ちが強く、互いに助け合って生活してきた。

現在、黎明台団地と沿岸部に分かれて生活している。ウニやアワビなどの船引きで、震災前のように協力している姿を見ると、絆が保たれていると感じてうれしくなる。つながりを保っていくためにも、みんなが参加できる行事などを増やしていきたい。

写真で振り返る10年の歩み

羅賀地区



震災から10年が経過した羅賀地区。命を守る平井賀水門や高さ14.3mの防潮堤が完成



ホテル羅賀荘が1年8カ月ぶりに営業再開(平成24年11月21日)



2年ぶりに羅賀みなとまつりを開催(平成24年7月28日)



遠隔操作を備えた平井賀水門が完成(令和3年3月9日)



拓洋台団地内に災害公営住宅20戸完成(平成26年11月26日)

忘れないー。古里の風景

【震災から10年】



【震災後】



【震災前】



羅賀自治会

畠山 拓雄
HATAKEYAMA TAKUO

Interview

地区全体でかつてのにぎわいを取り戻したい

震災前の羅賀地区は漁業が中心。たくさんの民宿や飲食店があり、観光客などでにぎわっていた。震災で多くの民宿や飲食店が被災した。高い防潮堤ができて、海が見えなくなった。風景が変わってしまい、さみしく思う。

震災とは関係ないと思うが、近年はサケやアワビの不漁など、漁業者にとっては大変な年が続いている。そのような中、羅賀地区で若い漁業者の担

い手が増えたことはうれしい。

震災から10年が経過し、地区住民の約半数は拓洋台団地で暮らしている。海岸部と高台移転地のコミュニティの維持がこれからの課題だと思う。

羅賀地区では、青年部や婦人会、老人クラブなど、各世代の団体が活発に活動している。自治会としても活動を支援しながら羅賀地区全体で、かつてのにぎわいを取り戻していきたい。

写真で振り返る10年の歩み

明戸地区



震災から10年が経過した明戸海岸。震災遺構やサケふ化場、マレットゴルフ場、キャンプ場が完成



震災後。防潮堤が決壊し、サケふ化場や防潮林が流失した



震災前の明戸海岸



マレットゴルフ場が再開(平成26年6月28日)



サケふ化場が完成(平成25年6月14日)

写真で振り返る10年の歩み

机地区



震災から10年が経過した机浜。復活した机浜番屋群は、体験型観光の拠点施設となっている



震災後の机浜。机沖防波堤が決壊し、机浜番屋群は流失



震災前の机浜



机浜海水浴場を開設。村で8年ぶりの海開き(平成30年7月26日)



机浜番屋群を再建(平成26年12月20日)

10年の歩み

⑤菅窪地区に村中央防災センターが完成



③2年ぶりにアワビ漁が解禁



①天然ワカメの共同採取が始まる



2016

2015

2014

2013

2012

2011



⑥旧羅賀小学校跡地に漁協事務所が完成



④1日も早い復興を願い復興祈念祭を開催



②東日本大震災犠牲者お別れ会を開催

2012(平成24)年		2011(平成23)年	
1月28日	羅賀、島越両地区の集団移転候補地が決定	3月11日	東日本大震災発生
3月11日	東日本大震災一周年追悼式	12日	避難所に601人が避難
26日	養殖ワカメの採取が始まる。島の沢水門が完成	29日	村漁協組合員などが島越漁港のがれき撤去作業を開始
		4月8日	3カ所で応急仮設住宅186棟の建設が始まる
		5月6日	岩泉高田野畑校グラウンドに応急仮設住宅50戸完成(5月16日入居開始)
		6月16日	田野畑中グラウンドに応急仮設住宅94戸完成(5月28日入居開始)
		7月4日	アズビイ施設周辺に仮設住宅42戸が完成(7月2日入居開始)
		7月28日	被災者の応急仮設住宅への入居が完了し避難所を閉鎖
		10日	東日本大震災犠牲者お別れ会を開催(写真②)
		29日	サッパ船アドベンチャーズ再開
		11月20日	復興祈念祭を開催
		26日	菅窪地区と羅賀地区に仮設店舗が開業
		12月28日	島之越漁港に仮設魚市場、市場用事務所などが完成
2014(平成26)年		2013(平成25)年	
3月2日	三陸沿岸道路「尾肝要道路」が開通	3月31日	観光交流物産施設「しおさい交流センター」が完成
27日	羅賀東団地に災害公営住宅7棟が完成	6月14日	サケふ化場が完成
29日	観光船発着施設が完成	7月28日	島越自治親交会が3年ぶりに島越大神宮祭を開催
4月6日	三陸鉄道が全線運行再開	8月6日	松前沢団地に災害公営住宅10棟が完成
		10月6日	復興祈念祭を開催(写真④)
		17日	高台移転団地の名称が、▼松前沢団地▼羅賀東団地▼黎明台団地▼拓洋台団地に決まる
		12月16日	マレットゴルフ場が完成
		25日	羅賀地区コミュニティセンターが完成
2013(平成25)年		2012(平成24)年	
2月28日	2年ぶりにワカメの塩蔵加工が始まる	3月11日	東日本大震災発生
4月16日	羅賀地区水産物加工施設が完成	12日	避難所に601人が避難
23日	机地区の共同倉庫と加工施設が完成	29日	村漁協組合員などが島越漁港のがれき撤去作業を開始
5月30日	島越地区の共同倉庫が完成	4月8日	3カ所で応急仮設住宅186棟の建設が始まる
7月28日	羅賀自治会が2年ぶりに羅賀みなど祭りを開催	5月6日	岩泉高田野畑校グラウンドに応急仮設住宅50戸完成(5月16日入居開始)
11月21日	ホテル羅賀荘が1年8カ月ぶりに営業再開	6月16日	田野畑中グラウンドに応急仮設住宅94戸完成(5月28日入居開始)
22日	2年ぶりにアワビ漁解禁(写真③)	7月4日	アズビイ施設周辺に仮設住宅42戸が完成(7月2日入居開始)

年表で振り返る

⑪三陸沿岸道路田野畑北IC一普代が開通



⑨明戸防潮林の再生に向け、小学生らが植樹



⑦平井賀郵便局が移転して営業再開



2021

2020

2019

2018

2017



⑫道の駅たのはた「思惟の風」がプレオープン



⑩鮭の中骨水煮缶詰が復活



⑧アズビィ仮設住宅の解体工事の様子

6月10日 17日	村魚市場が完成 仮設住宅に入居する被災者が全
2016(平成28)年	
12月8日	中央防災センター脇に防災備蓄倉庫が完成
12月15日	島越地区コミュニティセンターが完成
10月30日	村漁協の事務所が完成(写真⑥)
9月30日	中学校仮設住宅の解体工事終了
7月30日	拓洋台団地集会所完成
4月23日	明戸キャンプ場がオープン
3月20日	黎明台団地集会所が完成
2015(平成27)年	
12月10日	中央防災センター完成(写真⑤)
12月12日	明戸キャンプ場復旧工事が完了
11月26日	拓洋台団地に災害公営住宅20棟が完成
10月5日	復興祈念祭ファイナル開催
9月9日	西和野地区に災害公営住宅2棟完成
8月29日	羅賀地区消防防災センター完成
31日	黎明台団地に災害公営住宅24棟完成
26日	北山崎断崖クルーズ観光船が定期運行再開
25日	三陸鉄道島越駅舎が完成
7月21日	北山崎断崖クルーズ観光船の就航式を開催
6月8日	マレットゴルフ場が再開
30日	3年4カ月ぶりに村漁協自営定置網が操業を再開
2017(平成29)年	
6月27日	平井賀郵便局が営業再開(写真⑦)
7月25日	高校仮設住宅の解体工事終了
12月12日	震災遺構「明戸海岸防潮堤」完成
2018(平成30)年	
3月23日	アズビィ仮設住宅の解体工事終了(写真⑧)
4月30日	島越ふれあい公園が完成
12月15日	村道海鳴台線が開通
1月31日	机漁港沖防波堤の復旧工事完了
4月30日	羅賀ふれあい公園が完成
7月8日	尾肝要北山線、明戸北山線、北山崎線の村道3路線が全線開通
13日	明戸浜園地が開園
16日	島之越漁港記念碑を再建
26日	机浜に海水浴場を開設
8月25日	明戸防潮林の再生に向けてクロマツを植樹(写真⑨)
2019(令和元)年	
9月	村漁協浜岩泉浦女性部の「鮭の中骨水煮缶詰」が復活(写真⑩)
2020(令和2)年	
12月19日	三陸沿岸道路「田野畑北IC」一普代が開通(写真⑪)
2021(令和3)年	
3月9日	平井賀水門が完成
28日	道の駅たのはた「思惟の風」プレオープン(写真⑫)
29日	平井賀防潮堤が完成

たくさんの支援があったから今の自分があるー

あの日、私は久慈市にいました。買い物を終え、店を出ると車から夫が飛び出してきました。駐車場のアスファルトが波を打っていて、ただ事ではないと感じました。

私たちはすぐに車で田野畑村に向かいました。車内では何をしゃべったか覚えていません。ラジオが付いていたと思いますが、何も耳に入ってきませんでした。

村に到着し羅賀坂を下ると、がれきでふさがれていて、そこから前には進めませんでした。消防団員だった夫は、がれきを乗り越え、救助活動に向かいました。

羅賀坂から見る、がれきだらけの古里の光景に言葉も出ませんでした。しかし、心のどこかで自分の家は大丈夫だろうと信じていました。救助活動から戻った夫に「家は波をかぶり、船も倉庫も無くなった」と言われ、ショックを受けました。

何日かたち、バスに乗って羅賀地区に向かいました。自宅の周りは、がれきだらけで目の前が真っ暗になりました。その時、「洋子～、洋子～」と私を呼ぶ声がして、振り向くと近所のおばさんが立っていました。2人で抱き合って、おいおいと泣きました。

今までの普通の生活が幸せだったんだ

ということに気付かされました。震災を経験せずに、普段どおりの生活を送っていれば気付かなかったと思います。

仮設住宅での生活は、今でも忘れることができません。集会所に集まって、食事やゲーム、カラオケ、忘年会や餅つき、流しそうめんなどの行事がありました。楽しい思い出がたくさんあります。仮設住宅からみんなが出ていくときは、とてもさみしかったのを覚えています。

周りから聞こえる「おはよう」「いつてらっしゃい」「お帰り」の声に、みんなで助け合いながら生活していると思うようになり、とても救われた気がします。

現在は、高台移転団地の拓洋台団地に住宅を再建して生活しています。あの時、村内外のたくさんの人から支援してもらったから、今の自分があると思います。

困っている人の力になれることがあれば協力して、支援してくれた人たちに少しずつでも恩返ししていけたらいいなと思っています。

あの時は正直、海が嫌いになりました。今は毎日、海を見ながら出勤しています。海を見ながら車を走らせていると、やっぱり自分は海が好きなんだと思います。



山根 洋子^{さん} (56・羅賀)
YAMANE YOKO



震災2日目の旧羅賀児童館付近

「ちゃんと撮っておいでで」 その言葉に背中を押されたー

自席で広報紙を編集しているときに、大きな揺れに襲われた。外に飛び出し、揺れが収まるのを待って、先輩職員と2人で鵜の巣断崖に向かった。以前地震で崩れた箇所を確認する程度の気持ちだった。鵜の巣断崖から見ると、いつもより水が少なく感じた。南側の状況を確認しているとき背後から「ドーン」という、とても大きな音。振り向くと、真木沢浜に津波が押し寄せていた。慌ててカメラを構え、ひたすらシャッターを押した。無意識だったが、きつと「撮らなきゃいけない」と感じたのだと思う。

音としぶきはすごかったが、鵜の巣断崖からは羅賀や島越の住宅地は見えない。防潮堤があるのできつと大丈夫だと思っていた。そんな中、島越の松島付近の台船が流されて行くのが見え、ただ事ではないと気付いた。

翌朝から被災地の写真を撮影した。カメラを向けるのは正直嫌だったが、大きなためらいもあった。初めは「仕事だから仕方がない」と自分に言い聞かせ、いやいや撮影していた気がする。そんな中、たくさんの人に「ちゃんと撮っておいでで」と声を掛けられた。その言葉に背中を押され「これが自分



健康福祉課

佐々木 和也^{さん}
SASAKI KAZUYA

当時、広報担当として
震災の記録を残した



田野畑村消防団

上村 繁幸^{団長}
KAMIMURA SHIGEYUKI

当時、村消防団副団長として
行方不明者の捜索に当たった



捜索活動に当たる消防団員

自然災害を甘くみず、一人一人が命を守る行動を—

村議会3月定例会の会期中で議員控え室に居たときに大きな揺れを感じた。外に出て揺れが収まるのを待った。

私は、「絶対に津波が来る」と思い、羅賀地区に向かい避難を呼び掛けながら、海岸沿いを通り、机地区の自宅に向かった。スーツから消防団のはんてんに着替え冬支度をして、机浜に向かう途中の坂で消防団員と交通規制に当たった。

第1波は、ゆっくりと波が増えていく感じだった。消防団員たちと、これぐらいで済めばいいと話していた時、第2波が来た。沖で波が立って、覆いかぶさるように、防潮堤にぶつかったときの威力がすごかった。とても青い波だった。

しばらくしてから机浜に向い、被害状況と沖出した船が海上で無事なのを確認し、災害対策本部のある役場に向かった。被害状況を伝え、翌日の捜索計画を立て、その日は、当時の団長と副団長の3人で役場の会議室に泊まった。

消防団では翌日の朝から島越地区と羅賀地区の二手に分かれ、行方不明者の捜索を開始した。私は羅賀地区に向かい、現場で捜索の指揮を執った。全国から駆け付けた、警察官や自衛隊員たちとともに捜索に当たった。大きな余震があつて、

何度も何度も中断しながら作業を進めた。日にちがたつにつれて、捜索範囲を村境まで広げて手掛かりを探し続けた。午前7時30分ごろから午後4時ごろまでの捜索は、おおよそ10日間続いた。

団員たちは誰一人文句を言うことなく、真剣に捜索を続けてくれた。行方不明者の家族のために何か一つでも手掛かりを見つけてあげたいという気持ちがあつたと思う。村の一大事を団員たちが肌で感じて活動してもらったことを誇りに思う。

津波では、避難誘導に当たった団員が犠牲になった。その団員たちは、1人でも多くの人に声を掛けて、避難させようという使命感を持って活動していた。そのような中で仲間たちの命が失われたことは非常に悔しい。

震災後、消防活動の運用が見直され、津波到達予想時刻の10分前には避難を完了することになった。3月には平井賀防潮堤と水門も完成し、防災体制が強化された。しかし、自然災害を甘くみてはいけない。消防団は住民の安心安全を守ることが使命だが、まずは自分の命を守ってほしい。一人一人が自分の命を守るために行動すること。村民の皆さんもその行動を心掛けてほしい。

それぞれの3.11



鵜の巣断崖から撮影した、沿岸部に押し寄せる津波

の仕事だ」と思えるようになった。
撮影中は、砂の中に埋もれている何枚もの写真を見た。「思い出が詰まった写真を大切にしていた」と思うと、涙を止められなかった。写真の大切さに気付く「どんな写真でもちゃんと撮らなきゃいけない」と大きな気持ちの変化があつた気がする。
震災前の風景を忘れないでほしいと思ひ、震災前後の写真を広報紙に掲載しようと考えた。その際、震災前の写真を探すのにとても苦労した。普段の何気ない当たり前の風景を残しておくことも大切だと感じた。
写真だけではなく、震災を伝えていくことも重要な役目だと考え、体験談も掲載した。初めは取材に行く勇気が中々持てなかったが「ちゃんと話も聞いておいてくれ」と声を掛けてくれる人がいた。取材は皆さんが快く協力してくれた。きっと皆さんの心にも、震災のことを伝えていかなければならないという意識があつたのだと思う。



復興支援 Reconstruction Support

忘れてはいけない
世界中から届いた温かい支援

震

震災直後から避難所には、津波の被害を受けなかった内陸部の住民から食料や石油ストーブなどが届けられ、自治会婦人部や防火クラブ、村商工会青年部などが、持ち寄った食材で炊き出しを行うなど、村民一丸となって助け合いながら乗り越えてきた。

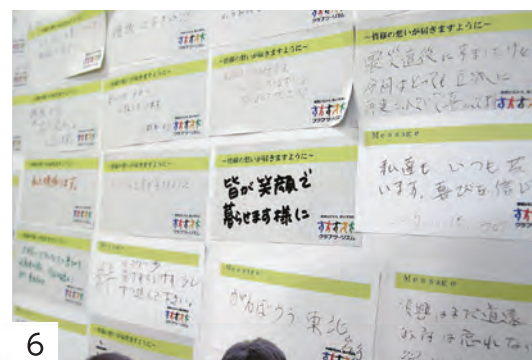
そして、全国、世界中からもたくさんの温かい支援が寄せられた。食料や日用品を送ってくれる人、音楽で被災者を元気づけようとする人、仮設住宅を回ってバラを届け心のケアをする人、遠くから被災地の復興を祈る人など、さまざまな支援があった。

高

台移転団地の整備や壊滅的な被害を受けた防潮堤の復旧工事、被災地区内の社会基盤整備、被災者の心のケアに、全国の自治体などから、土木技師や保健師など、たくさんの応援職員が駆け付けてくれた。

震災直後から令和3年3月末までに、▼盛岡市▼二戸市▼紫波町▼埼玉県深谷市▼青森県藤崎町▼青森県田舎館村▼青森県佐井村▼北海道新得町▼岐阜県高山市▼復興庁▼岩手県庁▼神奈川県庁▼香川県庁▼富士ソフト(株)から延べ133人が見ず知らずの土地で汗を流し、復興事業を支えてくれた。

1_避難所には震災直後から毎日のように、トラックいっぱいの支援物資が届けられた／2_チームバラ作戦は、仮設住宅などを巡回して、被災者にバラを届けてくれた／3_アズビィホール前で自衛隊第9音楽隊が演奏会。避難者を音楽で楽しませてくれた／4_神戸大や早稲田大の学生が、航空写真を基に震災前の古里の風景を模型で再現してくれた／5_机浜番屋群再生プロジェクトには、全国からボランティアが駆け付け、机地区の住民と一緒に汗を流してくれた／6_村を応援しようと書かれたメッセージ。島越駅にはボードいっぱいのメッセージが今でも掲示してある／7_青森県藤崎町では、村の子どもたちを元気づけようと、田野畑小の児童を祭りに招待してくれた／8_村の復興を支援しようと全国から応援職員が駆け付けてくれた／9_埼玉県深谷市から、6千人の応援メッセージが書き込まれた100匹の「こいのぼり」が届けられた



田野畑自治会婦人部
畠山 和子さん (74・田野畑)
HATAKEYAMA KAZUKO

Interview

海の人たちが大変なときは、^{おか}陸の人たちが支援しなきゃ

震災当時、田野畑自治会婦人部の部長でした。震災の翌日、婦人部のみんなが集まり、「避難してきた人たちのために何かしよう。海の人たちが大変なときは、^{おか}陸の人たちが支援しなきゃ」とおにぎりを作ることにしました。

災害対策本部からは、消防団や自衛隊など捜索活動をする人たちのために、おにぎりを作ってほしいと頼まれました。捜索は朝早かったので、私たちは

午前3時に保健センターに集まり、ろうそくと懐中電灯の明かりでおにぎりを作りました。米や梅干し、サケ、ノリなどは各家庭から持ち寄りました。

アズビィホールでは、内陸の婦人部などが交代で食事作りを手伝いました。今考えると大変だったなあと思いますが、当時は「被災した人はもっと大変だから」という思いがみんなにあったんだと思います。



青森県藤崎町
唐牛 重任<sup>上下水道課
主任主査</sup>
KAROUJI SHIGETO

私は、東日本大震災の応援職員として平成25年4月～9

月、28年10月～翌29年3月の2回、田野畑村に派遣されました。派遣期間中、羅賀地区の集落道整備や平井賀水門の工事に携わりました。震災当日は、藤崎町役場の自席で仕事をしていました。大きな揺れがして、しばらくするとパソコンの電源が落ち、目の前が真っ暗になりました。藤崎町の最大震度は4。停電は丸1日続きました。建設課にいた私は、公用車で町内のパトロールに向かいました。車の中でラジオから10数分の津波が来ているらしいと聞こえてきて、どうなってしまうんだろうと思った記憶があります。

田野畑村と藤崎町は、23年、24年の8月に田野畑小の児童を町の祭りに招待するなどの交流を始めていました。そのような

つながりもあり、被災した田野畑村へ応援職員を派遣することになり、24年の12月に私が派遣されることに決まりました。生活面や業務での不安はありませんでしたが、人間関係の構築があまり得意ではないので少し不安でした。

初めて田野畑村を訪れたのは、25年3月末。業務の引き継ぎで半日ほど滞在しました。

その時は、当時の建設第一課長に解説してもらいながら、村内を回りました。鳥越地区で三陸鉄道の線路が切れているのが印象に残っています。波がこんなに高いところまで来たというのを現地でもまざまざと見せつけられました。着任してからは、仕事のことや生活面でも一つ一つ聞くなど、皆さんと話すことを大切にしました。皆さん丁寧にしつかり教えてくれて、いい人たちに恵まれたと思

ます。同じ時期にほかの自治体からの応援職員がいたことも大きかったと思います。応援職員同士で相談することで励みになり、業務を続けられたと思います。

業務はとても新鮮で、道路の設計をしたとき、高低差にとても驚きました。藤崎町は平地でほとんど勾配がありません。田野畑村に來なかつたら経験できないことでも、とても勉強になりました。いろいろな人と話しをして、新しい仲間とのつながりがりもできました。本当に貴重な経験をすることができました。

27年4月には、田野畑村と藤崎町で友好都市関係が結ばれ、災害派遣が両町村の友好の一助になったことは誇りに思っています。

令和2年10月には、令和元年台風19号災害の応援職員として、田野畑村を訪れました。平井賀水門や防潮堤など、自分の関わった工事が図面どおりに完成して、感動を覚えました。

震災から10年を迎え、復興事業はほぼ完了と聞いています。東日本大震災、台風19号と災害が続いて大変だと思いますが、新型コロナウイルスが収束したら、田野畑村と藤崎町の交流をさらに深めていければいいと思っています。

< 感謝 Gratitude

全国からの応援で復旧・復興事業を進めることができたー

東日本大震災から10年を迎え、3月末で復旧・復興事業をおおむね完了することができた。事業を進めるに当たり、全国の自治体などから、たくさんの職員を派遣していただき、高台移転団地の整備や防潮堤工事などに尽力していただいた。心から感謝している。

震災当時、地域整備課には、課長のほか、土木技術職3人、事務職2人の

職員がいた。震災後は、漁港などの復旧事業や災害公営住宅の整備など、震災前では考えられない業務量になった。

応援職員の皆さんがいなければ、復旧・復興事業を順調に進めることができなかった。

村の皆さんも復旧・復興事業に、たくさんの人が関わってくれたということをお忘れしないでほしい。



地域整備課
たくお 課長
佐々木 卓男



NPO法人 チームバラ作戦
中村 有理事長
NAKAMURA YU



NPO法人チームバラ作戦
黒岩 誠 副理事長

大学生のとき、早稲田大学思惟の森の会の会員として、田野畑村で活動した。東日本大震災が発生し、それまで40年間、訪れることがなかった田野畑村がとても心配になった。

行けば何かできそうだと思います。20人ほどの若者を誘って、村へ向かった。私にとって田野畑村は、初めて意識した古里である。村に駆け付けた若者たちにとっても第2の古里になったに違いない。

工藤 房子さん (79) 〓 島越 〓

震 災後、私は東京の病院で災害派遣医療チーム[DMAT]隊員の心のケアに当たりました。実際に被災地で支援に当たった隊員の話聞くうちに、居ても立ってもいられない気持ちになりました。母校明星大の教授だった黒岩誠先生に声を掛けられ、被災地支援のために、一緒に田野畑村へ行くという話になりました。

初 めて村を訪れたのは、平成23年5月でした。そこには灰色の空間が広がっていて、すべてを持ち去った津波に、自然の恐ろしさを感じました。同時に、内陸部には、今までの村の風景があり、坂を下ると急に被災地になるというそのギャップに、とても戸惑った記憶があります。

私 たちは8月から活動を始めました。メンバーを入れ替えながら1カ月間、寒立荘に滞在し、毎週、仮設住宅を訪問してバラを一輪配りました。私たちにできることは、まず会って、ほんの少し話を聴かせてもらうことでした。これが、「チームバラ作戦」の由来です。

活 動を続けられたのは、村で過ごす時間が、とても大切なものだと思うからです。皆さんを忘れることがないからです。1年終わると、すぐ翌年のことを

考えます。皆さんに嫌われない限り、私たちは村に行ってしまうのではないかと思います。

あ の日から10年が経ち、「もう復興支援と言えないかな」という話を時々聞きます。皆さんは、どう思いますか？

さまざまな意見があると思いますが、辛い思い出や苦しい思いが消えないうちは支援を受けて良いと思います。私たちチームバラ作戦は、震災と共に生まれ、村で活動してきました。これからは村がより心地よい場所になるようなお手伝いもしていきたいと思っています。

Support 支援

バラの生命力と黒岩先生の言葉に元気をもらったー

仮設住宅に入居して間もなく、大学生がバラを一輪届けてくれました。そこには黒岩先生の手紙が添えられていました。食べ物でも着る物でもなく、なぜ花なのだろうかと思いました。

花は時間がたつと元気がなくなり、水切りして水につけるとまた元気になります。何度も何度も立ち上げる花を見ていると、元気をもらい自分も頑張

らなきゃと思うようになりました。

それから毎週、バラが届くようになり、私は先生に会いに寒立荘に行きました。先生は炉端にあぐらをかいて座っていて、私の話を黙って聞いていました。話し終わると先生は「ゆっくり、ゆっくり乗り越えていきましょう」と言葉を掛けてくれました。少し気持ちが楽になった気がしました。

記憶を未来へ

Memories for the Future

震災の教訓を未来へ伝えるために
立ち上がった人たちがいた

海の近くにいるとき どう行動するか考えてほしい

東日本大震災から3カ月ほどたったころ、体験村・たのはたの楠田拓郎事務局長(当時)が家を訪ねてきた。「首都圏から来る人に、震災の体験を話してくれないか」ということだった。津波で家族を失った人や仮設住宅で暮らしてる人たちがいる中で、震災のことを話していいものかと悩んだ。

今回の震災では、私も含めて津波を甘く見ていた人が多かったと思う。津波の恐ろしさを目の当たりにし、一步でも半歩でも高い所へすぐ逃げることが大切だと感じた。犠牲者を出さないために、伝えていくことが津波を体験した私の使命だと思って語り部を始めた。

特に子どもたちには、高台や内

陸に住んでいるから、自分には関係ないと思わずに聞いてほしい。やがて社会人になり、仕事や旅行で海の近くにいる時に、地震が起こるかもしれない。その時、自分だったらどう行動するかを考えながら聞いてほしいと思う。

避難所の様子も伝えている。避難所では、地区を越えてみんなで助け合ってきた。内陸部の人たちが避難所に集まり、温かい食事を作ってくれた。3日ほどしてから自主活動班ができて、役割分担をして避難所の清掃などを行った。支援物資が届くと全員で協力して物資を運搬した。大変な時はみんなで協力して乗り越えていかなければいけないと思うから。



大津波語り部

下坂 弘次^{さん}

SHIMOSAKA HIROTSUGU

(79・羅賀)

震 災から4カ月が経過した8月10日、NPO法人体験村・たのはたネットワーク(楠田拓郎^{たくろう}理事長)では、大津波語り部を始めた。語り部という形で被災地をガイドするのは、県内では初の試みだった。

「被災者の心情を考えると批判への不安はあった。それでも今後、津波で犠牲者を出さないために、震災を経験した私たちが伝えていかなくてはいけないと思った」と楠田理事長は当時を振り返る。

反響は大きく、9月には大型バスが何台も訪れるようになった。初年度は3071人、翌年度は5699人が村を訪れ、令和3年3月1日までに約2万3千人が語り部から震災の教訓を学んだ。

大 津波語り部は、実際に津波を体験した村民がガイドになり、島越地区や羅賀地区、震災遺構「明戸海岸防潮堤」などの被災地を歩きながら、震災前後の写真を使って解説。津波の恐ろしさや復興支援のありがたさ、絆の大切さなど、東日本大震災の教訓を後世に伝えている。

楠田理事長は「平和学習で沖縄や広島へ行くように、防災学習で震災の被災地へ行くことが定着すればいい」と力を込めた。



残された人を後悔させないために 自分の命を守ってほしい



大津波語り部

小野寺 しげ子さん
ONODERA SHIGEKO
(69・和野)

語り部を始めたのは平成26年6月ごろだったと思います。体験村・たのはたのスタッフからお願いされました。最初は断っていましたが、時間がたつにつれてやってみようと思うようになりました。

残された私たちが、震災の体験を後世に伝えていかななくてはならないという気持ちがどこかにあったのかなと思います。

語り部では、自分が実際に見て、感じたことをそのまま伝えることを心掛けています。参加者のほとんどは防災に関心を持っていて、震災の教訓を学ぶために来ます。真剣に話を聞いて、自分のことのように考えてくれる人たちを見るととてもうれしくなります。

皆さんに1番伝えたいことは、命は自分で守らなきゃいけないということです。残された人には「あの時、こうしておけば良かったんじゃないか」などという後悔が必ず残ります。大切な人に後悔をさせてはいけないと思います。

家族や友人など周りの人たちのためにも、しっかり自分の命は自分で守ってほしいと思います。

震災時は、すぐ帰れると思い、ラジオだけ持って避難場所に向かいました。服も何も無い状態から、全国からのたくさんの温かい支援を受けて、今まで進んでくることができました。語り部を通じて支援への感謝も伝えていきたいと思っています。

震災の教訓を未来へ

震災遺構「明戸海岸防潮堤」



津波で決壊した防潮堤の一部を震災当時のまま保存。津波の破壊力や恐ろしさを伝えている

羅賀ふれあい公園



羅賀自治会が建立した慰霊碑には、「津波を甘くみないで より早く、より高い所へ逃げる事」という教訓が刻まれている

島越ふれあい公園



公園内には島越自治親交会が慰霊碑を建立。津波に耐えた宮沢賢治の詩碑や旧駅舎の階段が被災当時のまま残されている



海と生きる

Live with the Sea

それでも私たちは海と生きていく
生まれ育った古里の海が好きだから



村 漁協(中村芳正組合長の自
営定置網で乗組員をまとめる
大謀の佐藤広為さん(44)「机」
長男の欣紀さん(22)、次男の聖星
さん(20)を含めた乗組員13人と定
置網漁に励んでいる。

広為さんは震災当時、沖の船上
で父の善三郎さんと刺し網漁の準
備をしていた。その時に地震が発
生した。



⑤佐藤 広為さん

⑥佐藤 聖星さん

「海の上で揺れは感じなかったが、崖が崩れてただ事ではないと思った。すぐに帰港して船をつないで高台に向かった」と振り返る。広為さんの自宅は、机浜のすぐそばで、両親が食堂と民宿を営んでいた。その自宅は津波で流失。漁船や漁具も全て失った。

「震災では多くの物を失った。でも家族に犠牲者が出なかったのが不幸中の幸いだった」と話す。

聖 星さんは震災当時、田野畑小4年生。一度村外に就職したが、おとし村に戻り、漁業に従事することを決めた。

「釣りをしたり、遊んだり、生活の中に海があった。小さい頃から父の背中を見ていて、漁師はカッコいいと思っていた。実際は大変で最初は怒られてばかりいたけれど辞めようと思ったことは一度もない。今はできることも増えてきた。自分の船を持って一人前の漁師になりたい」と力を込める。
現 在、サケやアワビの記録的な不漁など、漁業者を取り巻く環境は厳しい。

それでも広為さんは「これからも海と共に生きていきたい。つらいこともあったけど、やっぱり海が好きだから」と真っすぐに前を向く。

東

日本大震災から6日、沿岸部で消防団らによる搜索活動が続けられていた3月17日、県立久慈病院で新たな命が誕生した。佐々木大さん(44)Ⅱ和野Ⅱ、文加さん(41)の長男、興陽君。

「復興に向けて動き出した田野畑村。そんな村に昇る太陽のように、そしてみんなを照らす陽光のような温かい人になってほしい」と願い名付けられた男の子は、もう10歳になる。

島

越地区出身の大さんと文加さんは、結婚後も同地区で生活してきた。津波で自宅は流出。現在は、和野地区に自宅を再建し、長女の美野里さん(宮古高1年)、次女の優花里さん(田野畑中1年)、長男の興陽君(田野畑小4年)、母の紀子さん(77)と家族6人で幸せな暮らしを送っている。

震災当時産休中だった文加さんは、美野里さんの迎えと16日に控えた卒園式の記念品製作のため、他の保護者たちと島越児童館にいた。大きな地震が発生したため、美野里さんと優花里さんを車に乗せて内陸部に避難した。

避難所のアズビィホールで大さんと再会し、夜中に山道を通って、久慈市にある文加さんの姉の家に向かった。大さんはその日のうち

島越地区の白池海岸で笑顔を見せる佐々木大さん一家
左から、文加さん、美野里さん、興陽君、優花里さん、大さん



に村に戻り、翌日から消防団員として行方不明者の捜索にあたった。
大さんが興陽君の誕生を知ったのは出産翌日の18日。ラジオを聞いた友人から伝えられた。「うれしかった。明日の生活もどうすればいいか分からない中で、希望の光が見えたような気がした。19日に久慈病院に会いに行き、帰りの車では名前ばかり考えていた」と当時を振り返る。

文加さんは「今まで前を向いて進んで来られたのは、子どもの存在が大きかった。たくさんの人にも支えられた。避難所でも仮設住宅でも子どもたちを周りの人が見守ってくれた。支援物資に添えられていたメッセージは今でも大切に取ってある。たくさんの人に支えられてきたことを子どもたちにも教えていきたい」と力を込めた。

現在、興陽君はスポ少軟式野球に所属し、勉強やスポーツに一生懸命取り組んでいる。担任の根木地瑠美先生は「いつも明るくて、みんなを笑わせてくれる人気者。盛り上がっている中心にはいつも興陽君がいる。教室を明るくしてくれている」と言い切る。
 あの日生まれた新たな命は、佐々木大さん一家そして、周りの人々を温かく照らし続けている。

新たな命 誕生



東日本大震災で混乱が続いていた3月17日。村沿岸部で懸命の救助作業が行われていたところ、県立久慈病院で新しい命が誕生しました。3166グラムで元気な産声を上げたのは、佐々木大さん(34)、文加さん(31)＝鳥越＝の長男・興陽君。
 電話などの通信手段が失われていたため、大さんが長男誕生を知ったのは、翌日の18日。消防団員として活動していた大さんは、ラジオ放送を聞いた友人から

長男誕生の知らせを聞きました。
 震災で大さんの自宅は全壊。現在は親類から借りた空き家に、家族6人で生活しています。お姉ちゃん(小1⑥)と優花里ちゃん(小1⑥)と優花里ちゃん(3つ)に見守られ、すやすやと眠る興陽君。名前には「復興に向け動き出した田野畑村。そんな村に昇る太陽のように、そしてみんなを照らす陽光のような温かい人になってほしい」と願いが込められています。

がんばろう！日本 がんばろう！東北 がんばろう！岩手 がんばろう！田野畑 24

佐々木興陽君の誕生を伝えた、本紙平成23年5月1日号。興陽君を笑顔で見つめる、お姉ちゃんの優花里さん(当時：3歳)⑥と美野里さん(当時：田野畑小1年)

あの日から10年――

3月11日、村は東日本大震災追悼式をアズビイホールで開催した。昨年から感染拡大が止まらず、いまだ終息の見通しすら見えない新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、式典は行わず、来場者が祭壇に自由に献花する形式で行った。会場には、175人が訪れ、犠牲者のあらかな眠りを祈った。

地震発生時刻の午後2時46分には、震災犠牲者を追悼する防災行政無線のサイレンが村内に鳴り響いた。村内各地では、犠牲者に黙とうがささげられた。

同時刻、私は島越ふれあい公園にいた。そこでは島越自治親交会（鈴木隆昭^{たかあき}会長）が、島越地区東日本大震災追悼式を開催していた。地域住民や同地区の出身者など、村内外からおおよそ100人が集まり、黙とうや献花で犠牲者を追悼した。島越自治親交会事務局の

工藤修さん^{おさむ}（67）は「どれくらいの人が集まってくれるか不安だった。たくさんの方が集まってくれてありがたい。震災から10年たった今でも地区のつながりが強いことを再確認できた」と感慨深げに話した。

翌12日、東日本大震災から11年目の始まりとなった日、私は、再び島越地区を訪れた。島越駅の駅長、早野くみ子さん（65）と西和野Ⅱと地区内を歩いた。震災前の記憶を頼りに、思い出話をしながら歩を進めた。沿岸部では、復興事業で新しい建設物や道路が整備され、初めて訪れる人には、ここであの大災害があったことを感じさせない。

「ここに自宅があつて、この場所が郵便局、○○さんの家はここにあった」と話しながら歩く早野さんは、少しうれしそうにも見えた。海の方に向かって歩き、震災前、私の実家があった場所に立ち、周囲を見渡わ

私たちは前に進んで行く



島越地区東日本大震災追悼式

たすと、そびえ立つ防潮堤に囲まれ、そこからもう海は見えなかった。

しかし、そこに立つと、子どもの頃、この場所で過ごした記憶がよみがえる。懐かしい町並み、小学校に通った通学路、近所のおじさんやおばさんの笑顔、たくさんの方が集まった夏祭りや盆踊り、そして一日中遊んだ海水浴―。

震災前の記憶は確実にそこに残っている。

東日本大震災は多くのものを奪い去った。しかし、人と人とのつながりや大切な思い出は奪うことができない。震災後「絆」という文字をよく目にした。大変な時こそ、人と人とのつながりや助け合いの心が大切だということだと思う。

10年間には、たくさんの方の絆があった。地区住民同士の絆、避難所での地区を超えた助け合いや内陸部の人たちの支援など、村に生きる私たちの絆があった。

復興支援で生まれた新しい絆もあった。村のために何かできることはないかと世界中から寄せられた温かい支援の絆。

私たちはこの10年を決して忘れてはいけない。そして、未来へ伝えていかなければならない。古里の記憶や震災から前を向いて歩んできた記憶、そして、世界中から寄せられた温かい支援の記憶。

東日本大震災という大災害から10年が経過した今、新型コロナウイルス感染症という新たな困難が私たちの前に立ちはだかっている。困難のときこそ思い出してほしい。互いに思いやりの心を持ち、助け合い、支え合い、協力して歩んできたこの10年間を。

私たちならどんな困難も乗り越えられると信じて前に進んで行こう。

古里そして震災の記憶と共に――。

特集 終わり

震災の記憶と共に



2021年3月11日

もうすぐ1年生♪

「おおきくなったらなにになりたい?」

田野畑小学校への入学を心待ちにしている新1年生16人。
そんなみんなに、将来の夢を書いてもらいました。



三浦陽斗くん (羅賓)

やまゆうせんしゅ



畠山桜也くん (羅賓)

ぽくしゅくの
せんしゅ



佐藤凛ちゃん (羅賓)

ばねリーな



奥地陽菜里ちゃん (肩肝要)

いあいしゅの
せんせい



佐藤ひなたちゃん (田野畑)

びょうし



砂森遥斗くん (羅賓)

けいしゅかん



深渡志帆ちゃん (羅賓)

りっしゅつ、の
ていりん



野崎 莉愛ちゃん (西和野)

ガンゴシ



下田 結梨ちゃん (西和野)

けーきやさん



小野 隼太郎くん (菅達)

へんとしきょうの
ていん



阿部 こはるちゃん (羅賓)

アイドル



高橋 和希くん (田野畑)

けいせうせんしゅ



熊谷 一真くん (尾肝豊)

しょうぼうし



吉田 健太くん (大戸)

こでもきとだてる
おとうさん



小長根 健太くん (机)

なわとこまの
せんしゅ



北川 楓花ちゃん (菅達)

ままみたいな
かんこし

夢を語り 夢を実現し 愛し続けることができる村に

令和3年第3回村議会定例会が3月5日に開会しました。
村づくりの方向性や新年度の主要事業など、
石原弘村長が施政方針演述を行いました。

1 はじめに

降り積もる深雪に耐えて色変えぬ
松ぞ雄々しき人もかくあれ

これは、昭和天皇が昭和21年の
歌会始で詠まれた歌です。「降り
積もる深雪」には、当時の社会情
勢が映し出されています。

戦後の日本において、打ちひし
がれた国民に、深い雪に覆われて
も青々と茂る松の木を雄々しき日
本人に例えて、今の苦しみを耐え

忍びつつ国民の幸せを願った歌で
あると感じています。

現在の新型コロナウイルス感染
症が世界中に流行する社会情勢が、
降り積もる深雪に映し出されてい
るかのようであり、今は苦しみに
じっと耐えて、次なる良き社会を
築いてほしいという励ましの言葉
のように思えます。

新型コロナウイルス感染症とい
う困難の中でも青々と茂る松の木
の雄々しさをもち、村民の心を一
つに、「国利民福」の姿勢で村政
を進めます。

多くの尊い命が失われた東日本
大震災から、間もなく10年を迎え
ます。犠牲になられた方々に心か
ら哀悼の意を捧げます。村民の皆
さまの協力と全国の方々からの温
かいご支援を受けながら、災害復
興計画を基に取り組んできた復興
事業は、おおむね完了することが
できました。

あらためて震災復興に関わった
皆さまに感謝を申し上げます。こ
の震災の教訓を胸に刻み、今後も
防災や減災、伝承活動に力を入れ
て取り組みます。



また、いかなる大規模自然災害
などが発生しても機能不全に陥ら
ないように、強さとしなやかさを
兼ね備えた、安全で安心な地域を
つくることを目的に、現在、「田
野畑村地域強靱化計画」をまとめ
ており、3月末までに策定します。

今後、発生が危惧される日本海
溝・千島海溝沿いの地震による津
波や集中豪雨による風水害・土砂
災害を想定し、事前に備えておく
ことで迅速に復旧・復興できる強
靱な地域づくりに取り組みます。

1日も早い復旧・復興に向けて



SDGs（エス・ディー・ジーズ）とは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。SDGsは2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193カ国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標。17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されています。

取り組んできた政策から、新年度は、持続可能な村づくりを進める新たなスタートラインに立ちます。行政運営においては、国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）を取り入れます。SDGsは難しい活動ではなく、その17の

ゴールのうち最も身近で、優先度の高いものから取り組むことが大切であり、「住み続けられるまちづくりを」という項目があります。また、SDGs達成のための8つの優先課題には地域活性化があります。人口減少や少子高齢化など、

多くの地域が直面している課題解決のために、地域創生とSDGsを組み合わせて、地域に根ざした地方自治の進め方、企業との連携や地域住民の相互協力によって、協創の社会づくりを進めます。

昨年は、本村においても、新型コロナウイルス感染症に即応しなければならぬ1年になりました。目に見えないウイルスとの不条理な戦いは地域経済への影響が大きく、特に観光や飲食、宿泊業者の経営は大変厳しい状況が続いています。

村では、国の地方創生臨時交付金を活用し、公共施設への体温測定カメラの設置や地域経済や住民生活を支援してきました。しかし、世界的に感染流行の長期化が予想されています。本村においても国や県などと連携しながら、予防接種の対応などに引き続き取り組めます。

2 村政運営の基本姿勢

基本的な施策の展開

自治体を取り巻く環境はこの10数年で大きく変容しており、これからの自治体経営には、「三つの視点」が必要であるとされています。

その一つ目は、「減量型行革からAI等の先端技術を活用した利便性の高い行政サービス」への移行です。

行政改革は平成17年の集中改革プランから始まり、27年には地方行政サービス改革と推進に関する留意事項が通知されました。30年には、地方自治体における業務改善の取り組みとしてまとめられ、これらの減量型行政改革は一定の成果を得ました。

しかし、人口減少や少子高齢化が進む中で持続可能な社会をつくるためには、新たな時代に向けた技術革新など、次なる行革が求められています。

二つ目は「人材戦略」です。

昨今、よく聞かれる言葉に、DX（デジタルトランスフォーメーション）があります。これは、パソコンやインターネットなどの情報技術の浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させることを言います。

自治体においては、日常的な作業や事務を遠隔操作などで自動化するRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）の活用や、セキュリティを踏まえた最適なクラウド化、デジタル人材不足の解消を中心としたICT化を進

めることが求められています。
これによりDXを推進できる能力
を持った人材育成が図られます。

三つ目は、「自治体間の連携」
です。

すべての自治体の行政経営にお
いて、人口減少が及ぼす影響は、
「人」「物」「金」という資源が減
少することであり、生活に欠かす
ことのできない行政サービスにも
さまざまな支障が予想されていま
す。一方、西日本を中心に地域連
携によってこの課題を克服する取
り組みが行われており、「奈良モ
デル」「高知モデル」などと称し
て注目を集めています。

村では、近隣の岩泉町、普代村
との三町村連携会議を重ねており、
また、三陸沿岸の連携を強化する
ため、沿岸13市町村で構成する岩
手三陸連携会議で活発な意見交換
を行っています。

この「三つの視点」に加えて、
地域創生の実践のために多様な組
織と連携を図りながら、地域の未
来を切り開いていきます。

4月には、道の駅たのはた「思
惟の風」が本格的に営業を開始し

ます。村としては、運営主体や生
産者の育成に取り組むとともに、
地域交流の基幹施設として、産業
連携やさまざまなイベント、文化
活動の披露の場として、積極的な
利活用を推進します。

行財政運営の方針

村の職員数は、行財政改革ブラ
ンで立てた目標よりも少ない人数
で推移してきており、平成17年度
と令和元年度の人件費を比較する
と約28%の減額となっています。

行政運営にあたっては、働き方
改革に積極的に取り組みながら、
職員の能力向上とプロパー職員の
適正な人数を確保します。

財政については、確実な歳入確
保と国や県の補助金を活用しなが
ら、経常収支比率の改善や投資的
事業の見直しなどを行い、引き続
き歳出削減に取り組みながら、持
続可能な財政運営を進めます。

地域創生を進めるためには、人
を育てることに加えて、「情報」「企
画」「財源」が必要であり、地方
創生推進交付金の活用やふるさと
納税、民間企業との連携、クラウ

ドファンディングなどにより、積
極的な財源確保に取り組めます。

3 主要施策の概要

重点施策の推進

① 新型コロナウイルス感染症対策
国内で新型コロナウイルス感染
症が確認されてから1年が経過し
ましたが、終息までの道のりはい
まだに見えていません。

改正予防接種法に基づき、本村
でもワクチンの接種に向けた事務
を進めています。円滑に接種でき
るように体制整備に努め、接種可
能な時期が分かり次第お知らせし
ます。

ワクチンを接種したとしても、
手洗い、マスクの着用、密を避け
ることが感染予防の基本対策とな
ります。村民の皆さまにおかれま
しても、引き続き徹底して取り組
んでいただくようお願いいたしま
す。

いわゆる「コロナ禍」における
村内の経済・雇用については、首
都圏等での2回目の緊急事態宣言
から、より厳しさを増しています。

産業団体や商工会、第3セクター
と綿密に情報交換しながら、国の
交付金などにより村内事業者を支
援します。

② 人口減少対策の推進

3月1日現在の村の人口は
3192人となり、この1年間で
103人減少しました。出生数は、
平成30年度9人、令和元年度10人、
2年度10人と横ばいで推移してい
ます。

人口減少が進む中で、若者や子
育て世代が移住し、住み続けても
らうことが、本村にとつての最重
要課題となっています。地方創生
推進交付金を活用した移住者誘致
推進事業やSNSなどを活用した
PRを強化するとともに、新年度
は、村営住宅2棟、定住促進住宅
1棟の新築工事を行い、定住人口
の増加に努めます。

道の駅の管理運営は民間会社へ
委託を予定しており、新しい雇用
の場にもなります。働きやすい雇
用の場の確保と住みやすい村づく
りを実現させるために、地域の先
輩が指導者となり、大きな心で若

者のチャレンジを応援してほしいと願ってやみません。

若者の活気と先輩方の知恵を集めて、さまざまな取り組みを展開することで、村内外から多くの人々を招き、田野畑ファンを増やします。

③豊かな自然環境の保全

私たちが生きていくうえで必要な水は、自然の中を循環する大切な資源であり、地域の自然の豊かさを示すものです。村民の皆さまが安心して暮らすために、机地区簡易水道施設の北山地区管路更新整備に着手します。

改修工事が終了した田代・千足地区の給水施設については、4月から村の管理に移行し、安心して利用できる供給態勢を整えます。

令和元年の台風19号による北山浜と真木沢浜の漂着ごみについては、村道の復旧工事完了後に回収と撤去を行い、日本一の海岸美を誇れるように海岸保全に取り組みます。

国の第5次環境基本計画では、国連の「SDGs」や「パリ協定」といった世界的な潮流や複雑化する環境や経済、社会の課題を踏まえた「地域循環共生圏」を提唱しており、村においても県北沿岸広

域で取り組んでいる「県北沿岸地域循環共生圏構想」に参画しながら、横浜市との物産交流を手始めに、循環再生圏の確立と産業再生を連動させます。

④子育て環境の充実

第2期田野畑村子ども・子育て支援事業計画に基づき、2年度から野外保育に取り組んできました。自然の中で遊びながら、たくましく成長していく子どもたちの姿に、何事にも挑戦する頼もしさを感じました。

新年度は、道の駅周辺にも自然



子どもと大人が自然の中で遊べる企画を検討する

の中で遊べるスペースを整備しながら、大人も一緒になって野外活動や創作活動ができる企画を検討します。

一方で、急激な人口減少と少子化に伴って、統合を見据えた児童館と保育園の施設の在り方を早急に検討する必要があります。議員各位をはじめ、保育士や子育て世代、若者などの意見を伺いながら、統合時期や施設規模など検討します。

⑤高齢者等への生活のサポート

「一人ひとりが力を発揮し大切にされて生き続けられる村」を基本理念とする田野畑村地域福祉計画を基に、さまざまな福祉活動に取り組んでいます。

新年度は、現計画が終了することから、高齢者や障がい者の生活課題を地域で支えていく仕組みなどをあらためて検討し、新しい地域福祉計画を策定します。

介護保険を利用されている方がいつまでも元気に自立した生活を営むことができるように、地域のさまざまな専門職が集まって個々に応じた介護サービスを計画する自立支援型地域ケア会議を設置します。

知的障害児の自活を目指して昭

和46年に開設した宮古市崎山の知的障害児施設「はまゆり学園」は、施設全体の老朽化と立地条件から災害時の孤立などが懸念されていました。

台風19号ではそれが現実のものとなり、一時孤立する事態となっていました。このことから、昨年、沿岸知的障害児施設組合において、安心して利用できる施設を目指すために移転を決定し、構成団体である本村も財政支援することにしました。

⑥安全・安心な暮らしの向上

昨年は台風被害もなく、比較的に穏やかな気候の1年になりました。しかし、災害はいつ起こるかわかりません。村民一人一人の防災意識を高めるとともに、多発する災害に備えて「自助・共助・公助」の役割を定着させる必要があります。3月1日現在、村では6人の防災士を育成しており、新年度は4人以上の防災士を育成します。

3月末に完成する新しい地域防災計画は、発災前の備えや発災後の優先業務の整理、いわゆる業務継続計画（BCP）を盛り込んだ内容となっています。また、東京大学との共同研究で作り上げた災害対応工程管理（BOSS）システ

ムの導入と合わせて、ウェブ上で災害復旧業務の進捗管理ができる体制を構築しました。

今後は、これらの情報機器とデジタル防災行政無線を連携させた防災体制を強化します。

台風19号災害からの復旧事業については、漁港につながる村道など、村民の皆さまには長らくご不便をお掛けしておりますが、1日も早い復旧を目指し、工事を進めます。

県事業を活用しながら治山工事に取り組み、村民の生命や財産を守る災害に強い地域づくりを目指します。

社会基盤の整備については、台風19号災害の復旧工事を優先しながら、村道沼袋三沢線改良舗装工事や村道鉄山線落石対策施設整備などを引き続き進めます。地域強靱化計画に基づき、災害に強く信頼性の高い幹線道路ネットワークを構築します。

⑦ 地域に根ざした産業振興

長引く新型コロナウイルス感染症の影響から、飲食業が危機的状

況となっており、1次産業においても市場販売価格の低迷により、厳しい経営が続いています。

新年度においても、菌床シイタケの原材料購入費支援や和牛繁殖牛導入事業補助を継続し、1次産業の経営安定を図ります。

林業については、森林環境譲与税を活用し、森林経営管理法に基づく意向調査を行いながら、管理が難しくなっている民有林などの整備を促進します。未来へつないでいく森づくりを目指し、多様な森林活用および複合経営を助長する施策の展開として、特用林産物振興や特産品開発に連動した地域資源を維持・拡大する施策を展開します。

深刻な課題となっているナラ枯れ被害の拡大防止対策については、県と連携して引き続き実施します。

現在、野生鳥獣による農作物などへの被害が拡大しています。ツキノワグマやニホンジカに加えて、生息域の北上が懸念されているイノシシへの警戒も必要となっています。村鳥獣被害防止対策協議会



漁業者の経営安定につなげる

の活動の強化により、安全の確保と鳥獣被害に強い地域づくりに努めます。

水産業については、サケやイカ、アワビなどの不漁が続いており、村漁協、漁業者とも一層厳しい経営状況となっています。特に、磯焼けによるアワビの不漁は深刻であり、昨年は漁協によるウニの本格駆除が行われるなど、藻場再生

が急務となっています。

震災から10年となり、国と県のアワビ種苗購入補助は終了しますが、村と漁協が共同でアワビの稚貝放流を継続し、同時に藻場形成対策の実施など、水揚げ量の増加と漁業者の経営安定につなげます。また、漁港施設の機能の強化と保全も引き続き進めます。

6次産業化の推進については、

これまでに開発したクロモジ茶やクロモジシロップ、岩手が入りレトルトカレー、ワカメやシイタケを使ったファストフードなどを道の駅で販売します。

道の駅の運営体や産業開発公社、村内の産業団体と連携したギフトカタログやインターネット販売による、特産品の効果的な販売戦略を確立します。

商工、観光業については、度重なる緊急事態宣言によりGOTOトラベルとGOTOイートの停止など、新型コロナウイルス感染症の影響が飲食や宿泊、交通、観光業の経営を直撃しています。今後感染対策に取り組みながら、経済動向を注視し、事業者を支援します。

観光振興については、国の地域おこし企業人交流プログラムによる専門家の派遣をいただきながら、観光資源の磨き上げや体験プログラムの開発など、コロナ禍における観光戦略を検討します。

⑧ 社会を支える人づくり

生産年齢人口が増加することが理想ではありますが、現在の人口構成に合った労働環境をつくることも社会を支える人づくりに大切な取り組みだと考えます。



子どもたちの自主性や主体性を大事に育む

地域創生の目的は、地域資源を生かす人材の流入を図ることでもあります。故郷回帰や農村回帰などによる人の流入と、地域の自発的な取り組み、広域連携を図ることが、住みたい場所として選択されることにつながると考えています。

昨年、村と教育委員会、田野畑中学校の仮会社Comaruの3者で包括連携協定を結びました。中学生が村の農林水産業などについて学び、村の魅力を発信しようとする村産材を生かした工芸品づく

りに取り組んでいます。中学生の思いが込められた商品が道の駅で購入できることになります。

地域の頼もしい大きな力であり、村としても引き続き活動を支援します。人づくりは村づくりにつながります。子どもたちの自主性や主体性を大事に育んでいきます。

新総合計画の策定

新総合計画については、各分野におけるさまざまな課題について議論を深めたいことから、現計画を1年間延長し、継続審議することになりました。

また、計画期間については、時代の変化が激しい中において、村民の皆さまの意見を適時に反映していくため、基本構想を令和4年度から11年度までの8年間、前期基本計画を令和4年度から7年度までの4年間とする方向で検討します。

新総合計画は、SDGsの考え方を取り入れ、将来にわたって住み続けたいと思う持続可能な村を実現させる総合的な村政運営の指針として策定します。

4 むすびに

東日本大震災や台風19号災害、新型コロナウイルス感染症の世界

的な流行と、私たちは困難な時代を生き抜こうとしています。

その長い道のりの先を照らす輝きには、人を愛し、人を敬い、お互いに励まし合う姿勢を持って臨む「忘己利他」の精神が映し出されていると感じます。

復興を成し遂げるためには、「生命尊重」という命を最優先した意識変革があり、同じ目的に向かって頑張ってきたという「共生の意識変革」が生まれました。また、自ら地域を創ろうとする「参加の意識変革」が生まれたことを強く感じられた10年でした。

これからも、村民の皆さまが希求する地域像を目指し、村民のための政策を進めます。

復興事業の総仕上げとして完成を迎える道の駅は、多くの人々を歓迎する場所であり、村民の役割のある場所でもあります。思惟する大地に人々が集い、夢を語り、夢を実現し、愛し続けることができる村は、持続可能な地域の人材を育てることにもつながります。村民による村民のための村づくりを推し進めます。

議員各位ならびに村民の皆さまの一層のご理解とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。



ふるさとに愛着を抱き 人間性豊かな人材を育てる村に

令和3年第3回村議会定例会で、相模貞一教育長が
教育行政運営の基本的な考え方や主な施策などを示した
教育行政方針を述べました。

はじめに

昨年より急速に感染拡大している
新型コロナウイルス感染症は、
現在も子どもたちの学びに大きな
影響を与えています。今後とも新
しい生活様式を踏まえながら、感
染予防対策に取り組み、児童生徒
の健康・安全を第一に学びの保障
などに取り組みます。

平成30年11月20日の村総合教育
会議において策定しました、田野
畑村教育大綱に基づき、「ふるさ
とに愛着を抱き、人間性豊かな人
材を育てる村」を教育の目指すべ
き将来像として、4つの教育の基
本目標の推進に努めます。

国と県教育委員会の施策を参酌
しつつ、村教育委員会の重要施策
について申し上げます。

基本目標1

進んで学び、心豊かでたくまし
い子どもを育成する教育

子ども一人一人の個性の伸長と
学びの場を保障するために、お互
いに認め合い支え合う学校風土と、
「主体的、対話的で深い学び」を

行う教育環境の実現を目指します。
①子どもたちに生きる力を育むこ
と

子どもたちが「確かな学力」「豊
かな心」「健やかな体」を総合的
に兼ね備え、変容する社会に適応
し、社会を創造するための「生き
る力」を育む教育を進めます。

②新しい時代の学校経営の展開

これからの時代を担う子どもた
ちの成長を村を挙げて支えるため
の教育環境を構築するため、田野
畑村教育振興運動や現在も活動を
展開している地域学校協働活動、
そして学校、家庭、地域が目指す
べき目標やビジョンを共有し、よ
り一層の連携・協働する「コミュ
ニティ・スクール」を導入し、本
村ならではの教育環境づくりを目
指します。

③学校教育を支える学びの基盤づ くり

小中学校の学びの充実を期して、
小中学校に高速かつ大容量の通信
ネットワークの整備を図るとも
に、先端技術の活用を推進するた
め、学校ICT利活用のための基
盤整備を進めます。

学校教育の指導の重点

①小中連携教育の視点に立った教
育活動

小中学校それぞれ1校の利点を
生かし、小中学校9年間を見通し
た小中連携教育に継続して取り組
みます。田野畑村の「自然」「人」「文
化」のよさを、豊かな体験活動
を通して学ぶ「田野畑学」を研究実
践し、ふるさと田野畑村に愛着と
誇りを持ち、日々変容を続ける予
測困難な社会の中でも、志を高く
もち、それぞれの人間形成や自己
実現に向けて立ち向かうことので
きる子どもたちを培っていきます。
②確かな学力を保障し、生き抜く
力を育む教育活動

生きる力の基盤となる知識と理
解の確実な定着を図るとともに、
学んだことを活用して課題を解決
する力を育み、学びに向かう力や
人間性などを総合的に育むために、
「主体的で対話的で深い学び」の
実現のため、村標準学力検査を小
中学校全学年で実施し、分析など
を通して授業改善に取り組みます。
小中学校に整備していくICT
教育環境を活用し、児童生徒が意

欲的に学習に取り組めるよう授業改善に努めるとともに、教職員の授業力向上、学校事務の効率化を図り、教職員の働き方改革の目的でもある教職員の資質向上にも努めます。

昨年度から小学校5、6年生で本格実施されている、教科化された外国語教育では、引き続き外国語指導助手と推進員を配置し指導者への支援と指導の充実を図ります。中学生の海外派遣研修の実施を検討し、国際性と積極性を高め、異文化理解を深めます。

③豊かな人間性や社会性を育む教育活動

自他の命を大切にし、他者の人権を尊重する教育を推進するとともに、「特別の教科 道徳」を中核とした道徳性の育成や、小中連携教育の研究と実践による、田野畑学での体験や奉仕活動、読書活動の充実により心の涵養に取り組みます。

不登校やいじめをなくすため、児童生徒一人一人がお互いを尊重し合う学校風土づくりと、学校いじめ防止基本方針に基づく未然防止、いじめ事案への適切な対応に努めます。不登校対策では、児童生徒に寄り添った支援の充実に引き続き努めます。

④健やかな体を育む教育活動

運動やスポーツに親しむ習慣や能力を身に付けるように、小中学校の教科体育や業間運動の充実、部活動指導員の配置やスポーツ少年団活動と連携を図り推進します。

学校給食での食に関する正しい理解と安全安心な食を選択できる力を養うとともに、家庭と連携した食習慣や食事マナーの向上を図ります。

⑤多様な支援の充実を図る教育活動

個別の支援に注力するとともに、児童生徒の自立や社会参加に必要な力を育むため、特別支援教育支援員を配置します。

教育の機会均等のために、就学援助や奨学金の貸与を行います。児童生徒が安全安心で快適に学べるよう学校施設の適正な管理に努めます。

基本目標2

心身共に健全で心豊かな青少年の育成

基本目標3

生涯学習推進計画を推進し、多様な人材の育成

基本目標4

貴重な文化財や郷土芸能の保存・継承の推進

人と人、人と地域がつながる機会を充実し、さまざまな学習活動、スポーツ活動、歴史・文化資源にふれることで、心豊かに生きがいをもって暮らすことのできる社会の実現を目指します。

①個々の学習や活動意欲を盛り立て支援する活動の展開

各種社会教育事業や生涯教育の事業を村民のニーズに応じて計画的に取り組み、発表や交流機会となる村民文化展の開催や、郷土芸能発表会の開催を支援します。

全県共通課題と推進区ごとの課題に基づいた教育振興運動の活発化を図るため、推進区ごとの体制の整備と相互の交流を深めるとともに、地域学校協働活動やコミュニティ・スクールとの連携・協働を進め、その取り組みの発表の場や村民の研修の場として、村教育のつどいを開催します。

地域や家庭の教育力の充実と向上のため、発達段階に応じた家庭教育学級を開催し子どもたちの基本的生活習慣の確立を目指します。友好都市である深谷市や藤崎町との小学校交流事業の実施を検討し、児童の交流を深めます。

②スポーツ活動への関心を高め、健康寿命を延ばす活動
推進体制の充実のため、村体育

協会やスポーツ推進委員、各種団体と連携を図り、スポーツ教室と大会を企画し、村民のスポーツ活動を推進し、村民の健康と生きがいづくりに積極的に取り組みます。体育施設の適正な維持・管理に努め、利用者の利便性の向上に努めます。

③貴重な文化財や郷土芸能の保存・継承の活動

村民文化展や青少年劇場を開催し、村民や児童生徒の芸術文化活動の振興を図ります。

芸術文化活動の振興のため、村芸術文化協会や郷土芸能伝承団体及び各種サークルを支援します。指定文化財をはじめ、貴重な文化財を後世に伝えていくため、適正な保存と学習への活用にも努めます。

むすびに

田野畑村の「未来」に向けた「人づくり」の使命を自覚し、教育行政の推進に子どもたちはもとより村民挙げてより一層、「教育」に取り組めるよう、田野畑村の教育行政の推進に鋭意努めます。

議員の皆さまをはじめ、村民の皆さまのご理解とさらなるご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新年度予算の概要

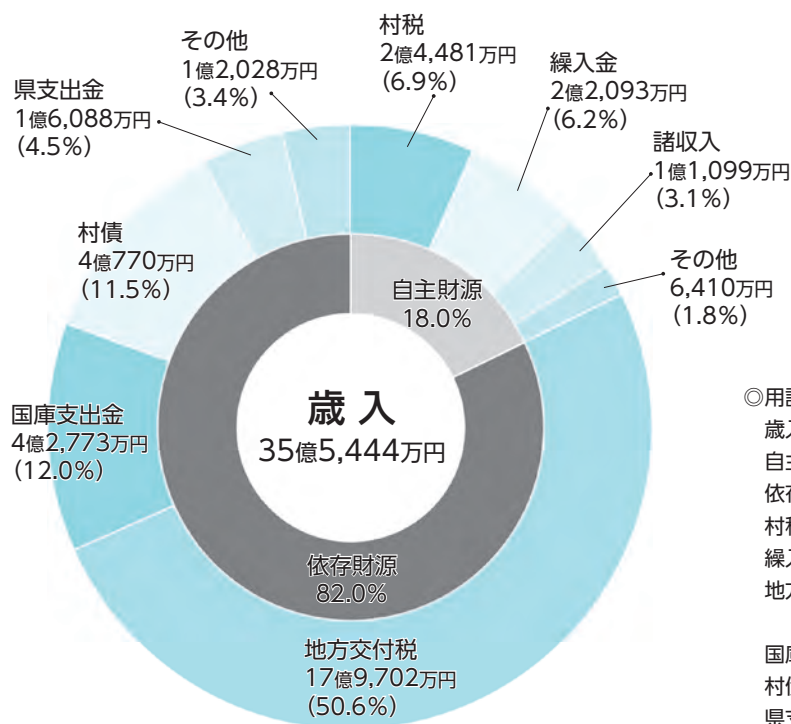
令和3年度の当初予算の総額は、一般会計35億5千万円余り、特別会計を含めた全会計では、51億4千万円余りとなりました。

村道の改良舗装などに関する事業や村営住宅、定住促進住宅の整備に関する事業などを盛り込みましたが、前年度比、一般会計で37・5%、全会計で29・4%の減となりました。

減額の主な要因は、令和元年台風19号災害の災害復旧事業費の減額によるものです。

新年度予算編成にあたっては、人口減少や少子高齢化に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により大幅な税収減が見込まれる中、限られた財源を有効活用するため、継続事業の精査や縮小に取り組むとともに、経常経費の見直しを図りました。

■令和3年度一般会計歳入予算の状況



◎用語の説明

歳入…1会計年度に村に入ってくるお金の見積もり
 自主財源…村が自主的に集められるお金
 依存財源…国や県から交付されるお金や村債
 村税…村民税など、村に納める税金
 繰入金…基金などから一般会計に繰り入れるお金
 地方交付税…全ての市町村が一定の行政サービスを行えるように国が交付するお金
 国庫支出金…村が行う事業に対して国が交付するお金
 村債…借入金のうち長期にわたり返済するもの
 県支出金…村が行う事業に対して県が交付するお金

■令和3年度の予算規模(全会計)

※万円未満四捨五入

【単位：万円・%】

区 分		令和3年度	令和2年度	増 減	伸び率	
一 般 会 計		35億5,444	56億8,380	－21億2,936	－37.5%	
特 別 会 計	国民健康保険会計	事業勘定	6億1,086	6億3,570	－2,484	－3.9%
		直診勘定	1億1,959	1億2,720	－761	－6.0%
	簡 易 水 道 会 計		1億9,685	1億4,905	4,780	32.1%
	集 落 排 水 会 計		5,624	1億 41	－4,417	－44.0%
	下 水 道 会 計		3,311	4,094	－784	－19.1%
	介護保険会計	事業勘定	5億2,609	5億 344	2,265	4.5%
		サービス勘定	1,160	1,101	60	5.4%
	後期高齢者医療会計		4,094	3,873	221	5.7%
	小 計		15億9,527	16億 648	－1,121	－0.7%
合 計		51億4,971	72億9,028	－21億4,057	－29.4%	

令和3年度の主な事業

【新型コロナウイルス感染症対策】

新型コロナウイルス予防接種対策事業 1,472万円

【人口減少対策】

村営住宅整備事業 6,557万円

定住促進住宅整備事業 3,563万円

思惟エリア(道の駅たのはた)一体整備事業 3,500万円

道の駅たのはたを軸とした地域しごと

づくり事業 3,500万円

新・教育立村による移住者誘致事業 957万円

【豊かな自然環境の保全】

小規模給水施設管理費 781万円

海岸漂着物対策事業 1,497万円

【子育て環境の充実】

若桐保育園運営事業 1億 60万円

たのはた児童館運営事業 3,760万円

放課後児童クラブ運営事業 1,562万円

【高齢者などへの生活のサポート】

シルバーサポーター設置訪問事業 764万円

社会福祉施設整備事業補助金 5,902万円

【安全・安心な暮らしの向上】

田代地区消防屯所耐震化整備事業 2,142万円

村道沼袋三沢線道路改良舗装事業 7,472万円

村道鉄山線落石対策施設整備事業 7,000万円

平井賀漁港北防波堤機能強化事業 5,185万円

【地域に根ざした産業振興】

水産資源造成事業 350万円

未来の森づくり造成事業 305万円

体験観光交流促進事業 386万円

観光振興企業経営改善支援事業 4,234万円

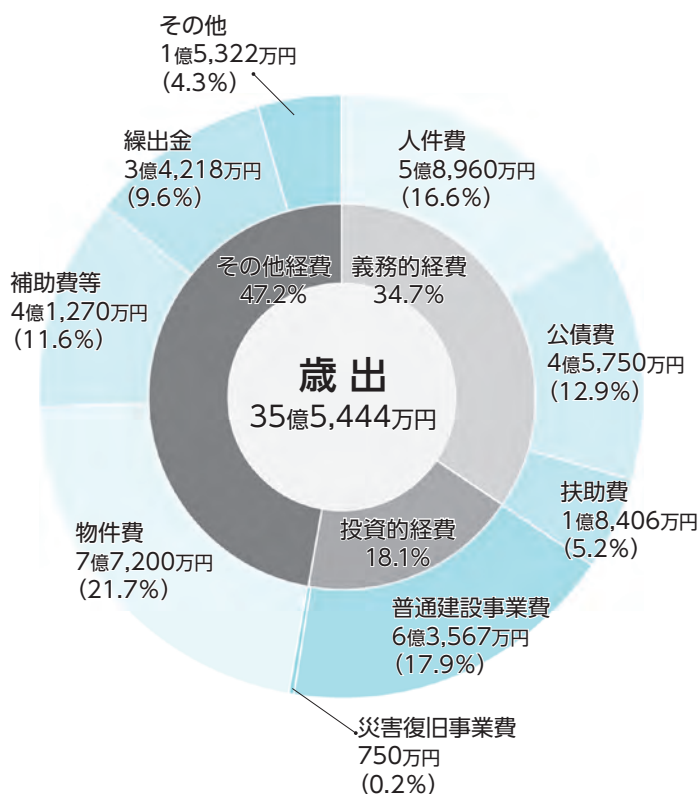
【社会を支える人づくり】

小学校ステップアップ事業 195万円

中学校ステップアップ事業 71万円

給食センター管理運営事業 2,095万円

令和3年度一般会計歳出予算の状況



◎用語の説明

歳出…1会計年度に村から出ていくお金の見積みり

義務的経費…職員の給与や社会保障などに使われるお金

投資的経費…施設や道路など将来に残るものに使われるお金

人件費…村職員の給与や議員、委員などの報酬

公債費…村の借金の返済

扶助費…要介護高齢者、高齢者などの生活維持や保育活動に使われるお金

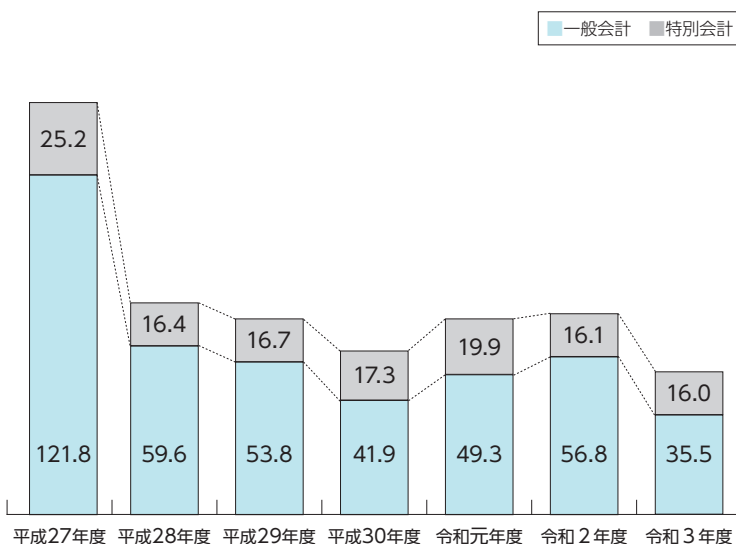
普通建設事業費…道路や公共施設などの建設事業などに使われるお金

物件費…消耗品や備品の購入、光熱水費などに使われるお金

補助費…村が交付する補助金や他の団体と共同で事業を行うための負担金

繰出金…特別会計に充てられるお金

一般・特別会計の当初予算歳出額推移【単位：億円】



令和3年度 人事異動

村職員、広域消防職員、学校教職員などの
人事異動をお知らせします。

村職員

◆総務課

会計管理者兼主幹―佐藤和子、主幹
―似内義友、総務・財政班主任主査
―大澤健、同主事兼税務・会計班主
事―畠山佳恋

◆生活環境課

生活環境・国保介護班主事―船越宏
太

◆地域整備課

主幹―平坂聡、道路・上下水道班主
任主査―工藤光昭、漁港・住宅班主
任主査―佐藤太

◆産業振興課

主幹―早野和彦

◆健康福祉課

健康福祉班主任看護師―阿部春枝、
同主任―山口芳美

◆村診療所

主任看護師―工藤昌子

◆農業委員会事務局

主任―向井俊一

◆新採用

総務課総務・財政班主事兼税務・会計
班主事―神田和季、健康福祉課健康
福祉班保健師―関畑瑠夏

◆新採用（任期付き）

地域整備課道路・上下水道班主査兼復
興対策班主査―千葉敏夫、同主査―
山本嘉裕、同主査―落合正幸、教
育委員会事務局主事―中島竜一

◆退職者（任期付き）

地域整備課道路・上下水道班主任主査
―打座博文、同主査―藤崎貴士、
同主査兼政策推進課まちづくりグラン
ドデザイン推進室主査―仲村公生、
地域整備課漁港・住宅班主任主査―佐
藤幸喜、健康福祉課健康福祉班保健
師―小野寺純子、教育委員会事務局
主事―鈴木亮

派遣職員

派遣期間終了者
カッコ内は派遣元

地域整備課道路・上下水道班主任主査
―唐牛重任（青森県藤崎町）、同主査
―中澤健介（盛岡市）、同主任―戸
澤達洋（秋田県大仙市）、同技師―江
郊内達也（盛岡市）、同主任兼復興対
策班主任―千葉敏夫（岩手県）、地域
整備課漁港・住宅班主任―栗屋睦（岩
手県）、同主任兼復興対策班主任―今
橋克寿（岩手県）、総務課地域情報化
専門員―片山貢二（富士ソフト㈱）

広域消防

異動転出者
カッコ内は異動先

分署長―伊藤勝（消防本部指令課）
副分署長―吉田秀雄（宮古消防署）
消防主任―八重樫勝利（岩泉消防署）
消防主任―内村拓道（川井分署）
消防副士長―佐々木雅浩（宮古消防署）
消防士―古舘峻（山田消防署）

教職員

異動転出者
カッコ内は異動先

◆田野畑小

教諭―白築了太郎

（岩手大付属小・教諭）

養護教諭―長内美貴

（宮古市立磯鶏小・養護教諭）

講師―伊藤樹梨藍

（岩泉町立大川小・講師）

講師―早野太貴

（岩泉町立岩泉中・講師）

講師―畠山早苗（退職）

◆田野畑中

校長―石川健

（盛岡市立乙部中・校長）

副校長―佐々木美江子

（葛巻町立葛巻小・校長）

教諭―舘洞康範

（岩泉町立小本中・教諭）

養護教諭―及川未稀

（山田町立山田中・養護教諭）

◆教育委員会事務局

指導主事―片沼光輝

（二関市教育委員会事務局）

令和3年度は土地と家屋の評価替え

固定資産税は、土地や家屋、償却資産の評価額から算出しています。

令和3年度は、3年に一度の評価替えの年。過去3年間の資産評価の変動が土地と家屋の価格に反映されます。

評価額は4月中旬に送付する納税通知書や課税明細書などを確認してください。

◆土地の評価替え

土地の評価額は、県が公表する地価調査価格や不動産鑑定

価格の7割程度を基準にして決定しました

◆家屋の評価替え

家屋の評価は、再建築費（仮に今、建築した場合の建築費）を基準にします。建築物の動向と家屋の経過年数を反映させて評価額を決定しました。増改築や取り壊しなどがない限り、本年度から3年間、据え置かれます

◆問い合わせ先：総務課税務・

会計班（☎34-2112）

固定資産税課税台帳の確認を

固定資産税の課税の基になっている「固定資産税課税（補充）台帳」を縦覧します。

土地の売買や家屋の取り壊しを行った場合に、台帳の内容が訂正されていないと、誤って課税されることがあります。

必ず確認してください。

◆日時：4月1日（木）～30日（金）

午前9時～午後5時

※土、日、祝日を除く

◆場所：村役場総務課

◆問い合わせ先：総務課税務・

会計班（☎34-2112）

土砂災害警戒区域と砂防指定地の 固定資産税評価を減価

令和3年度から、土砂災害警戒区域にある宅地と砂防指定地の山林の固定資産税算出の基になる評価額を減価します。手続は必要ありません。

◆問い合わせ先：総務課税務・

会計班（☎34-2112）

●土砂災害警戒区域

◆減価の対象：県が指定した土

砂災害警戒区域にある宅地

◆減価率：評価額の40%を減価

※土砂災害警戒区域（レッドゾーン）

は、県が土砂災害が発生する恐れがある土地を指定した区域。建築物の構造規制や一定の開発行為に対する制限などが発生します

●砂防指定地

◆減価の対象：国が指定した、

砂防指定地にある山林

◆減価率：評価額の50%を減価

※砂防指定地は、治水上砂防のための設備を要する土地や一定の行為を禁止が制限すべき土地として国が指定した区域

聖火リレーのボランティアを募集

6月17日に鳥越地区で予定されている、東京2020オリンピック聖火リレーのボランティアを募集します。詳しくは、村ホームページを確認するか問い合わせてください。

◆内容：聖火リレールートに沿道整理など

◆申込方法：応募用紙を提出し

てください。応募用紙は教育委員会で配布するほか、村ホームページからダウンロードできます

◆申込期限：4月16日（金）

◆申し込み・問い合わせ先：教

育委員会（☎34-2226）

消防ポンプ自動車を更新整備

村は2月25日、村消防団第4分団の消防ポンプ自動車を更新しました。消防車両の引き渡し式は同日、村中央防災センターで行われ、石原弘村長から村消防団の上村繁幸^{しげゆき}団長に車両が引き渡されました。

旧消防ポンプ自動車は平成7年に配置。配置からおよそ25年経過し、老朽化が進んでいました。村消防団第4分団の三田地錦光^{きんこう}分団長は「一層気を引き締めて活動し、火災の無い村をつくっていききたい」と防火への誓いを新たにしていました。



更新された消防ポンプ自動車と村消防団第4分団の皆さん



正しい放水の方法を学ぶ初任団員

消防団活動に必要な基礎学ぶ

村消防団(上村繁幸^{しげゆき}団長)では3月7日、中央防災センターで初任団員教育を行い、入団5年以内の団員2人が参加。消防団活動に必要な基礎知識などを学びました。

参加者は、消防田野畑分署員から、消防団の組織制度や安全管理の講義を受け、実技でポンプ操法や訓練礼式^{りょうしき}を実践。村消防団第4分団の館石竜馬^{りょうま}さん(29)=田野畑=は「学んだことを生かして、村の皆さんが安心して暮らしていけるように活動していきたい」と力を込めました。

命を守る平井賀水門の運用学ぶ

羅賀地区の平井賀水門^{ひらいが}が3月9日、完成しました。水門と陸閘^{りくこう}の遠隔操作説明会は同日、村中央防災センターで行われ、村消防団の団員や村職員19人が参加。操作や運用方法などの説明を受けました。説明会后、団員は島の沢水門と平井賀水門へ移動し実践訓練。周囲の安全を確認し、遠隔操作で水門と陸閘を閉鎖しました。村消防団第1分団の中村和洋^{かずひろ}分団長は「水門が遠隔操作になり、団員の安全が守られることになる」と安心した表情を見せました。



水門閉鎖前に周囲の安全を確認する消防団員

こちらは防災たのはた広報です

デジタル防災行政無線が開局

◆問い合わせ先：総務課（☎34-2111）

防災行政無線をデジタル化

村の皆さんに災害発生情報や避難情報、生活情報などを迅速に伝達する防災行政無線。整備を進めてきた、デジタル化工事が2月22日に完成し、同日、デジタル防災行政無線に完全移行しました。

デジタル化に伴う主な変更点は、▼停電時のバッテリー稼働時間を従来の24時間→42時間から72時間に変更▼孤立時の連絡

手段として、6地区の消防団に無線機を配備▼各家庭に設置した戸別受信機に録音機能を追加—など。村役場の親局から放送した防災情報などは、各地区の屋外に整備した57の子局や各家庭に設置した戸別受信機を通じて皆さんに届けられます。

平成17年4月から運用してきた防災行政無線は、アナログ方式。電波法令の改正により、アナログ方式が令和4年12月から使用できなくなるため、村は、

デジタル化への移行を検討し、平成31年4月から整備を進めてきました。

整備費はおよそ4億677万円。タノくんバスに配置している無線装置なども更新しました。戸別受信機の故障や移設、新設は、総務課に問い合わせてください。

気象観測装置 POTEKA

防災無線のデジタル化に伴い、今までの雨量計も更新しました。

気象情報をパソコンやスマートフォンで誰でも閲覧できる気象観測装置 POTEKA（ポテカ）を設置し、10月から運用しています。

気象観測装置の設置場所は、▼村役場▼明戸公民館▼ホテル羅賀荘▼松前沢団地公園▼農村環境改善センターの5カ所。雨量のほか、気温や湿度、風向きなどを確認できます。



↑気象観測装置
POTEKA はココから



夢はプロバスケットボール選手 得点につながるパスを出せる選手に

僕はスポ少ミニバスでキャプテンをしています。県大会出場を目指して、チームのみんなで練習を頑張っています。

バスケットを始めたのは小学3年生。仲間と協力して得点を決めるのがバスケットの面白いところです。4月から最上級生として、下級生がバスケットを好きになるようなチームを作っていきたいです。

夢はプロバスケットボール選手になること。好きな選手は、NBA ウォーリアーズのステフィン・カリー選手。スリーポイントシュートを決めて、仲間の得点につながるいいパスを出せる選手になりたいです。



角舘 樹君

かくだて・いつき 田野畑小6年

消防だより

消防田野畑分署 (☎34-2100)

Information from the fire department

山火事に注意しましょう

令和元年に全国で発生した山火事は、1,391件。そのほとんどが1～5月に集中しています。

主な原因は、▶落葉が積もり燃えやすい状態▶風が強い日や乾燥した日が多い▶行楽や山菜採りのために、山に入る人が増加▶農作業の枯れ草焼きなどが山林に飛び火一などです。

たき火や野焼き、火入れをするときは、消防署へ届け出が必要です。また、火入れは、市町村長の許可が必要です。

火災のほとんどは不注意から発生しています。火の取り扱いには十分に注意しましょう。

◆山火事防止対策の重点

- ①強風時や乾燥時に、▶たき火▶野焼き▶火入れ▶火遊び一をしない
- ②燃え広がりやすい枯れ草などがある場所で、たき火や野焼きをしない

- ③たき火や野焼きの場所を離れるときは、完全に消火する
- ④たき火や野焼きは一人で行わず、消火のために、水などを用意する
- ⑤指定された場所で喫煙する。吸い殻は必ず火が消えているか確認し、投げ捨てない

火入れと野焼きに注意

- 火入れ…森林や森林の周囲1^{キロ}の範囲内で、▶立ち木▶雑草▶堆積物一などを面的に焼却する行為。市町村長の許可と消防への届け出が必要
- 野焼き…枯れ草や廃棄物を焼却する行為で、原則禁止

※農業や林業、漁業を営むためにやむを得ない焼却、たき火など日常生活を営むうえで通常行われる軽微なものは例外。事前に消防署への届け出が必要

目覚めすっきり！ 寝たままできる簡単朝体操

だんだん暖かく過ごしやすい季節になってきました。春になると、「たくさん寝たのに眠い」「なんとなく調子が悪い」と感じることはありませんか。

寒い冬から暖かい春に変わるこの時季は、昼と夜の温度差があります。この寒暖差に体がなかなか追いつかず、さまざまな不調が現れます。

体の不調を予防するためには、生活のリズムを整えることが大切です。朝すっきりと目を覚ますことから始めましょう。

朝、布団から起き上がった後、カーテンを開けて太陽の光を浴びましょう。体内時計が調整され、頭をすっきりとさせることができます。

寝る前に少しカーテンを開けて、室内に朝日が入るようにしておくことも効果的。朝食を忘れずに取ることも大切です。

●寝たままできる簡単朝体操

【背伸び】

- ①両手を頭の上で組みます
 - ②手のひらを外向きに返して背伸びをします
 - ③5秒数えて力を抜きます
- ※①～③を3回繰り返します



①



②

【グーパー体操】

- ①手と足の指を強く握りグーにします
 - ②指を思いっきり開いてパーにします
- ※①～②を5回繰り返します

食改さんの健康レシピ

☎健康福祉課 (☎33-3210)

Health recipes

村食生活改善推進員が紹介。野菜を使った体に優しいおやつ



ゴボウブラウニー

※エネルギー 103kcal (1/2カット1切れ)

食改さんからひと言…コロコロとした、ゴボウの食感が楽しいおやつです。ゴボウには、腸内環境を整え、血糖値を下げる働きがある食物繊維が豊富。土が付いていて、太さが均一でヒゲ根が少ないものをおすすめです。

●材料 (直径12型1個分)

- ゴボウ……1/3～1/4本 米粉……1/2カップ
 薄力粉……1/2カップ
 ベーキングパウダー……小さじ1
 ココアパウダー……大さじ1
 【A】オリーブ油……大さじ2
 【A】無調整豆乳……1/4カップ
 【A】はちみつ……大さじ3

●作り方

- ①…オーブンを190℃に予熱しておく。ゴボウは皮をそいで5mm角に切り、水にさらしてアクを抜き、水気をキッチンペーパーでしっかり拭き取る
- ②…ボウルに米粉と薄力粉、ベーキングパウダー、ココアパウダーを合わせてふるう
- ③…②にゴボウと【A】を加えて切るように混ぜ、粉っぽさがなくなったらキッチンペーパーをしいた型に流し入れる
- ④…190℃のオーブンで25分～30分焼く

人口と世帯		火 災	
3月1日現在()は前月比		(2月21日～3月20日)	
人口	3,192人(－ 4)	火 災 の【今月】	0 件
男	1,597人(－ 4)	発生件数【今年】	0 件
女	1,595人(± 0)	無火災の連続記録	
世帯	1,378世帯(－ 2)	(3月20日現在)	122日

知 宇宙から復興支援へ感謝伝える

岩手、宮城、福島3県の沿岸市町村が参加している、東北復興宇宙ミッション2021。

宇宙飛行士の野口聡一さんが国際宇宙ステーションで読み上げた、被災地からの感謝のメッセージが3月11日、全世界に配信されました。

YouTube「宇宙から世界へ、ありがとう」で見ることができます。

◆問い合わせ先…地域整備課
(☎34-2113)

知 裁判所からのお知らせ

裁判所4月の広報テーマは「裁判所の手続きや公正証書で約束したお金の支払いを受けられずお困りの方のために」です。

判決や調停、調書、公正証書などの債務名義があれば、裁判所の情報取得手続で相手(債務者)の財産を調べることができます。

詳しくは、裁判所ホームページを確認してください。

◆問い合わせ先…盛岡地方裁判所事務局(☎019-622-3342)

知 自殺関連こころの相談

ストレス、不眠などで悩んでいる人や自死遺族などの相談に保健師が応じます。

◆日時…4月8日(木)

午前10時～正午

◆場所…宮古地区合同庁舎(宮古市五月町1-20)

◆その他…前日までに要予約

◆申し込み・問い合わせ先…宮古保健所(☎0193-64-2218)

知 観光船の定期運航を開始

北山崎断崖クルーズ観光船の定期運航が始まります。

◆運航期間…4月24日(土)～11月7日(日)

◆出航時間…▶午前8時40分、
▶10時30分、▶午後1時30分、
▶3時30分—の1日4便

※大型連休やお盆期間中は臨時便を運航

◆乗船料…大人1,500円、小人750円

◆問い合わせ先…北山崎断崖クルーズ観光船発着所
(☎33-2113)

知 精神科医による面接相談

◆日時…4月27日(火)
午後1時30分～

◆場所…村保健センター

◆対象…精神科や心療内科を受診したことがない人。家族からの相談も受け付けます

◆申込期限…4月23日(金)

◆申し込み・問い合わせ先…宮古保健所(☎0193-64-2218)、健康福祉課(☎33-3102)

知 多重債務の相談窓口を設置

盛岡財務事務所では、借入金の返済に悩んでいる人、家族の借入金で困っている人からの相談に応じています。電話での相談も可能です。

◆日時…月曜～金曜日

午前8時30分～午後4時30分

◆場所…盛岡財務事務所(盛岡市内丸7-25 盛岡合同庁舎)

◆その他…相談無料。秘密厳守

◆相談・問い合わせ先…盛岡財務事務所(☎019-622-1637)

知 学生の保険料の納付を猶予

国民年金には、所得が一定以下の学生の保険料納付が猶予される「学生納付特例制度」があります。

猶予期間は4月から翌年3月までの1年間。翌年度も在学予定の人には、申請書を送付します。引き続き猶予を希望する場合は、再度申請が必要です。

学生納付特例の期間は、将来受け取る年金額には反映されません。

◆申請窓口…村役場、宮古年金事務所(宮古市太田1-7-12)

◆用意するもの…①在学証明書(原本)、有効期限や学年の記載された学生証のいずれか②印鑑③基礎年金番号が分かるもの

◆その他…①過去2年分までさかのぼって手続きが可能②学生納付特例期間中の保険料は、10年さかのぼって納付可能③学生納付特例期間は、障害年金や遺族年金の受給資格期間になります

◆問い合わせ先…宮古年金事務所(☎0193-62-1963)、生活環境課(☎34-2114)

募 依存症家族教室を開催

◆日時…毎月1回木曜日
午後1時30分～3時30分

◆場所…県福祉総合相談センター(盛岡市本町通3-19-1)

◆対象…アルコールや薬物依存などの問題を抱える人の家族

◆申込期限…4月15日(木)

◆申し込み・問い合わせ先…県精神保健福祉センター(☎019-629-9617)

お知らせ

募 参加者などを募集中

知 いろいろなお知らせ

募 シルバー人材の会員を募集

- ◆対象…60歳以上の人
- ◆勤務日…土、日、祝日
午前8時30分～午後5時30分
※4月上旬から12月下旬を予定
- ◆内容…マレットゴルフ場と明戸キャンプ場の受け付けや、マレットゴルフ管理棟の清掃など
- ◆募集人数…2人
- ◆申し込み方法…電話で申し込んでください
- ◆申込期限…4月20日(火)
- ◆申し込み・問い合わせ先…村シルバー人材センター
(☎33-2816)

知 国民年金保険料は16,610円

- 4月からの国民年金保険料は、月額16,610円です。
- 保険料は1年または、6カ月分をまとめて現金で前納すると割引きがあり、大変お得です。
- 4月上旬に送付する納付案内書に、前納用の納付書を同封しますので、利用してください。
- ◆問い合わせ先…宮古年金事務所 (☎0193-62-1963)

知 精神保健相談窓口を設置

- ストレスやひきこもり、うつ状態、不眠や不安が続くなどの相談に専門の医師が応じます。
- ◆日時…4月8日(木)
午後1時30分～
 - ◆場所…宮古保健所
 - ◆対象…精神科、心療内科を受診したことがない人
 - ◆申込期限…4月6日(火)
 - ◆申し込み・問い合わせ先…宮古保健所 (☎0193-64-2218)

知 里親として子ども成長を応援

- さまざまな事情により、家庭で生活を送ることができないなど、不安な日々を送る子どもがいます。
- 里親制度は、そのような子どもが毎日を安心して生活できるように、家に迎え入れて養育する制度です。
- 5、6月に里親になるための研修会を開催予定。里親について詳しく知りたいなど、少しでも興味がある人は問い合わせてください。
- ◆問い合わせ先…宮古児童相談所 (☎0193-62-4059)

知 歯や口の悩み相談してください

- 4月18日は、「ヨイ歯の日」。
- 歯や口の中の健康に関する無料電話相談「ヨイ歯デーテレフォン相談」を実施します。
- ◆日時…4月19日(月)
午前10時～午後7時
※午後7時以降に歯科医師から相談者に電話で回答
 - ◆相談受付内容…歯、口に関する悩みについて
 - ◆相談料…無料
 - ◆電話相談…県保険医協会ヨイ歯デーテレホン相談係 (☎019-651-7341)

知 金融経済教育などの出前講座

- 盛岡財務事務所では、学校や学童クラブ、各団体の会合などで、金融経済教育講座や金融詐欺犯罪未然防止の出前講座を行っています。
- ◆問い合わせ先…盛岡財務事務所 (☎019-625-3353)

募 手話奉仕員養成講座を開催

- 宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村が合同で、手話奉仕員養成講座を開催します。
- 手話を学び、地域に貢献してみませんか。
- ◆日時…5月20日～令和4年3月17日の間の木曜日(全21回)
午後1時30分～3時10分
※教科で時間が異なります
 - ◆場所…イーストピアみやこ(宮古市役所)
 - ◆対象…田野畑村在住の18歳以上
 - ◆募集人数…10人程度
 - ◆参加費…無料
※テキスト代3,240円は村が補助
 - ◆申込期限…4月16日(金)
 - ◆申し込み・問い合わせ先…健康福祉課 (☎33-3102)

知 介護のしごと定期出張相談会

- ◆日時・場所
 - ①毎週月曜日 午前10時～午後3時・宮古市総合福祉センター
 - ②毎週火曜日 午後1時～3時・ジョブカフェ宮古(キャトル宮古5階)
 - ③毎月第3木曜日 午後10時～正午・ハローワーク宮古
- ◆対象…介護の仕事に関心がある人や就労を希望する人
- ◆内容…▶仕事内容▶求人、求職活動▶資格取得▶施設見学、仕事体験—に関する相談
- ◆その他…相談無料。履歴書不要。相談は予約を優先します
- ◆予約・問い合わせ先…県福祉人材センター宮古キャリア支援員 (☎080-8201-0199)

村長コラム

第78回

○卒業式で感じた子どもたちの成長



新型コロナウイルス感染症の影響で、さまざまな行事が制限され、普段のように学校生活を送れない中で、児童生徒ができることに全力で取り組んできたことが随所に感じられる卒業式でした。

田野畑中の卒業式で配られた学校だよりには、「自分の考えを言葉にできる中学生に初めて出会った」などの声が紹介されていました。全校合唱では「幸せ」という曲を歌い、「誰もが一人じゃなく愛されて生きているから辛くても頑張れる強さを持つことができる」という素晴らしい合唱を聞かせてくれました。卒業生が感極まって頬を伝う涙に、全てが凝縮されているとも感じました。

田野畑小の卒業式では、門出の言葉に、大きなランドセルを背負って入学してから、6年間でそのランドセルが窮屈に感じられるように成長したことや、たくさん感謝が込められていました。

地域の人たちが、皆さんのことを支えています。自分を信じて夢に向かって歩んでください。

田野畑村長 石原 弘

地域おこし協力隊の

たのはた暮らし

No.53



中野渡 和也さん

牛と一緒に訓練しています

田野畑村で酪農家になることを目指し、昨年12月に青森市から移住した中野渡和也です。日々、酪農家さんの下で勉強に励んでいます。

今まで牛に触れる事が無かったため、はじめは悪戦苦闘の毎日でした。

搾乳時は、「ドガッ!」「ビシッ!」と、搾り方が「モウ違うよ!」と言っているかのように、牛から愛のムチを頂きます。尻尾が顔に当たればビンタされている感じです(笑)。

牛も人間と同じように、子を産んで初めて乳を出します。出産時には母体を削って子どもを産むため、初めての搾乳時は少し落ち着きがありません。

搾り方が普段と違えば、驚いた牛から愛のムチを頂くことになりませんが、これも訓練していけば、母牛も慣れ、搾乳時はおとなしくなります。おとなしく絞られてきている牛を見ると、訓練されてきているんだなと深く心に感じるものがあります。

牛乳は昔、薬用や高級滋養品などとして、とても貴重だったといわれています。普段口にしていない牛乳にも深い歴史があります。これから皆さんに伝えていければいいなと思っています。皆さん、気温差が激しい季節ですが、牛乳を飲んで健康第一でお過ごしください。



トラクターを運転する中野渡和也さん

新刊紹介

【児童書】

とっています

市原 淳 著

お相撲さんが相撲を「とっています」。その後バランスを「とっています」。続いて写真を「とっています」。どれも同じ「とっています」だけど、何かが違うよ、とっても楽しい「とっています」。大人気絵本「もいもい」の作家が描く、同音異義語×ナンセンス。



【一般書】

いちばん美しい季節に行きたい日本の絶景365日

TABIZINE 著

日本全国の美しい景色を見るのに一番おすすめの時期を、365日に分けて紹介します。桜や紅葉の名所から、手つかずの自然が残された秘境まで、「日本にもこんな絶景があったのか」と驚きと感動が詰まった絶景写真集。



？ 広報クイズ ？？

問題の答えをはがきを書いて、役場政策推進課に4月15日までにお送りください。正解者の中から抽選で3名様に、タノくんキーホルダーが当たります。



Q 3月11日、村が開催した東日本大震災追悼式の会場を訪れたのは何人？

- A) 153人
- B) 175人
- C) 193人

■前号(3月号)の正解
Q→C

■先月当選者
藤原 満代さん (田野畑)
佐藤 林平さん (猿山)
佐藤 周一さん (岩泉町)

おめでた おくやみ

[令和3年2月届け出分]

(一部敬称略)

●健やかに ～誕生～

畠 山 唯 芯(いっしん)くん
俊介・楓 西和野

■安らかに ～お悔やみ～

牧 原 繁 富 (94) 大 芦
畠 山 シ オ (97) 羅 賀

※この欄に掲載してほしくない人は、届け出のとき、戸籍係の窓口にお申し出てください

「田野畑むらづくり基金」への寄付状況

(3月20日現在)

寄付金総額	7089万7008円 1043件 (村内136件、県内223件、県外684件)
取り崩し額	1929万9597円
基金残額 (運用益を含む)	5167万4662円

「田野畑むらづくり基金」の申し込み・問い合わせは、村ホームページをご覧ください。政策推進課(☎34-2111 内線61)までご連絡ください。

役立ちカレンダー

期間: 4月1日(木)～4月30日(金)

月 日	行 事	場 所	時 間	問い合わせ先
4月 4日 (日)	田野畑中学校入学式	田野畑中学校体育館	9:30～10:40	田野畑中学校 (☎34-2301)
7日 (木)	田野畑小学校入学式	田野畑小学校体育館	10:00～10:40	田野畑小学校 (☎34-2050)
22日 (木)	道の駅たのはた「思惟の風」 グランドオープン	道の駅たのはた	11:00～	政策推進課まち づくりグランド デザイン推進室

役場(代表)☎34-2111 / 総務課税務会計班☎34-2112 / 地域整備課☎34-2113 / 生活環境課☎34-2114
教育委員会☎34-2226 / 医科診療所☎33-3101 / 歯科診療所☎33-3100 / 健康福祉課☎33-3102



行政相談員の熊谷勤己さん

村の行政相談委員に、熊谷勤己さん(58)＝田代＝が総務大臣から委嘱されました。任期は、4月1日から2年間です。

行政が行う仕事などの困りごとは 行政相談委員に相談を

行政相談委員は、行政などが行う仕事について、意見や苦情を受け付け、助言や関係機関への通知など、皆さんの声を行政運営の改善に役立てる仕事を無報酬で行っています。

聞きたいことや困っていることなどがあるときは、気軽に相談してください。相談は無料で、秘密は固く守られます。

◆問い合わせ先: 総務課
(☎34-2111)



3月、巣立ちの春一。田野畑中(石川^{けん}健校長、生徒77人)と田野畑小(堀切^{しげ}茂^{ゆき}行校長、児童150人)の卒業式、たのはた児童館(横田^{ちほこ}千穂子館長、園児27人)と若桐保育園(有谷^{えつこ}悦子園長、園児44人)の卒園式がそれぞれ行われました。



3月18日 田野畑小卒業式(卒業生34人)



忘れない。ここで君と過ごした時間

3月19日 若桐保育園卒園式(卒園児9人)



★仕事は？

3月1日から、NPO 法人体験村・たのはたネットワークで働いています。多彩な体験プログラムを勉強中です。

★やりがいは？

地域の皆さんと協力して、地域活性化に携われることにやりがいを感じています。

★休日は何をしていますか？

まき割りやサウナ、みちのく潮風トレイルの散策などをしています。

★理想のタイプは？

やさしい人です。

★今後、挑戦したいことは？

青森県八戸市から福島県南相馬市までの、みちのく潮風トレイルの全エリア踏破に挑戦したいと思っています。

★最後に一言お願いします！

明るく、元気に、そして楽しく頑張っていきたいと思います。皆さんどうぞよろしくをお願いします。



のざき かずしげ
埜崎 一茂さん(46)＝宮古市＝



わが家の
アイドル



そう た
阿部 創太くん(1歳7カ月)
貴之さん・諒子さん＝島越＝

お母さんからのひとこと

歌とダンス、お散歩が大好き。お姉ちゃんたちと遊ぶことも大好きです。

性格は、何事にも全力。いつも全力で笑って、全力で泣いています。元気で思いやりのある人になってね。

編集こぼれ話

▼東日本大震災から10年が経過しました。震災で犠牲になられた方々にあらためて哀悼の意を表します▼4月号もたくさんの方に協力していただき、無事発行することができました。大切な家族や友人を失った人、思い出の詰まった財産を失った人、被災者に寄り添い支援した人など、震災からの10年間は、皆さんそれぞれの思いがあったと思います。取材をする中で感じたことは、海そして田野畑村を皆さんが好きなんだなということ。平成28年の4月に広報担当になってから5年、震災からの10年のおよそ半分を取材させていただきました。前を向いて復興に向かう村の姿を記録させていただいたことを誇りに思います▼4月から担当が変わりそうな感じの文章になってしまいました。が、広報担当6年目がスタート。皆さんが主役の広報紙。これからも取材へのご協力よろしくをお願いします。「地区でこんなことをやるよ」「こんな人がいんだよね」など、お気軽に情報をお寄せください。
(政策推進課 佐々木 歩)

